

センター試験（英語）の傾向

出題内容

センター試験『英語』の出題範囲は、「コミュニケーション英語Ⅰ」に加えて「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ」となっている。つまり、おおまかに言って高校2年生までに学習する内容が出題範囲ということである。しかも、難解な問題が出題されるのは稀であり、学習指導要領に沿った良問が出題されやすい傾向にある。日頃の授業を大切に、基礎力を養っていれば、受験生が十分に対応できる出題内容である。なお、出題分野は以下の通りであり、2016年度と2015年度では、第5問（長文読解）を除いては形式等の大きな変更はなかった。

『Kei-Net』（河合塾）のデータを参考作成

2015年度					2016年度				
	分野	配点	マーク数	語数		分野	配点	マーク数	語数
第1問	A 発音	6	3	12	第1問	A 発音	6	3	12
	B アクセント	8	4	16		B アクセント	8	4	16
第2問	A 文法・語法	20	10	223	第2問	A 文法・語法	20	10	209
	B 語句整序	12	6	75		B 語句整序	12	6	86
	C 応答文完成	12	3	182		C 応答文完成	12	3	184
第3問	A 対話文完成	8	2	142	第3問	A 対話文完成	8	2	148
	B 不要文選択	15	3	376		B 不要文選択	15	3	363
	C 意見要約	18	3	641		C 意見要約	18	3	620
第4問	A 図表(図・グラフ)	20	4	641	第4問	A 図表(図・グラフ)	20	4	682
	B 図表(広告)	15	3	369		B 図表(広告)	15	3	333
第5問	長文読解(メール・手紙文)	30	5	854	第5問	長文読解(物語文)	30	5	877
第6問	長文読解(論説文)	36	9	854	第6問	長文読解(論説文)	36	9	758

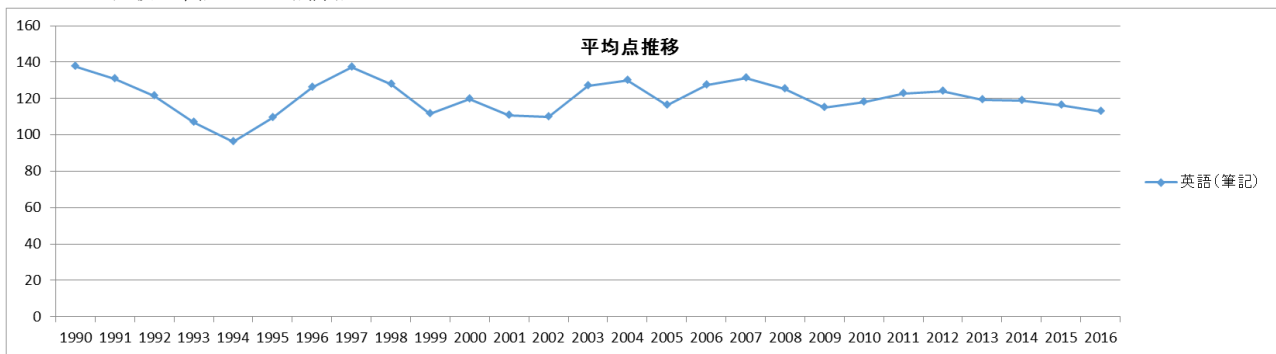
平均点の推移

センター試験が実施されてから今年度までの平均点（本試）の推移は以下の通りである。

センター試験本試平均点推移（1990年度～2016年度）

年度	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
英語(筆記)	137.62	130.96	121.32	106.72	96.42	109.52	126.14	137.42	127.74	111.44	119.62
年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
英語(筆記)	110.7	109.68	126.82	130.1	116.18	127.52	131.08	125.26	115.02	118.14	122.78
英語(リスニング)						36.25	32.47	29.45	24.03	29.39	25.17
年度	2012	2013	2014	2015	2016						
英語(筆記)	124.14	119.15	118.87	116.17	112.43						
英語(リスニング)	24.55	31.45	33.16	35.39	30.81						

※センター試験の筆記は200点満点



これまで行われてきた1990年度から2016年度本試（筆記）の平均点は120.33点である。およそ6割であり、難易度は平均的であると言える。一般的に、旧帝大や国公立大学医学部は9割、地方国公立

大学は 7 割から 8 割程度が合格に必要な得点とされている。平均点が 6 割であるのと比べると、難問も取りこぼしなく正解しなければ合格点に到達できないという印象を与えるかもしれないが、実はそうではない。合格点に到達するための方法を次から見ていくことにする。

正解率

次に示すのは、2013 年度から 2016 年度までの筆記試験（本試）における設問別正解率である。問題の難易度を把握する上で参考とすべき資料である。センター試験の過去問題を解いた際、できなかった問題が基本問題か応用問題かを把握すれば、自分の現状の実力がわかるであろう。ところで国公立大学を目指している生徒は、他の受験生が解けている問題はもちろん、解けなかった問題、つまり正解率が低かった応用問題もできなければならないという思い込みがあるかもしれないが、実はそうではない。

『大学入試センター試験徹底分析』（Benesse）を参考に作成

	2013				2014				2015				2016		
	設問番号	配点	正解率 %		設問番号	配点	正解率 %		設問番号	配点	正解率 %		設問番号	配点	正解率 %
第1問	1	2	73.1	第1問	1	2	66.1	第1問	1	2	88.2	第1問	1	2	81.2
	2	2	88.3		2	2	62.0		2	2	56.4		2	2	76.4
	3	2	75.8		3	2	40.6		3	2	93.6		3	2	81.7
	4	2	74.0		4	2	79.6		4	2	81.6		4	2	54.7
	5	2	52.2		5	2	78.2		5	2	60.2		5	2	73.2
	6	2	60.4		6	2	73.2		6	2	41.5		6	2	58.9
	7	2	64.6		7	2	58.9		7	2	76.5		7	2	82.8
第2問	8	2	73.7	第2問	8	2	80.9	第2問	8	2	37.8	第2問	8	2	81.0
	9	2	70.0		9	2	81.1		9	2	61.5		9	2	61.0
	10	2	68.9		10	2	68.5		10	2	58.2		10	2	46.0
	11	2	76.2		11	2	52.9		11	2	41.2		11	2	44.8
	12	2	62.0		12	2	77.6		12	2	74.4		12	2	64.1
	13	2	71.3		13	2	94.8		13	2	56.2		13	2	48.4
	14	2	85.4		14	2	41.7		14	2	18.0		14	2	17.2
	15	2	73.7		15	2	52.9		15	2	46.7		15	2	50.8
	16	2	74.6		16	2	42.4		16	2	73.6		16	2	46.0
	17	2	58.0		17	2	51.9		17	2	54.0		17	2	59.6
	18	3	70.8		18	4	70.0		18		91.6		18		69.0
	19	3	81.2		19	4	83.3		19	4	49.5(48.1)		19	4	72.1(63.1)
	20	3	82.3		20	4	85.5		20		93.1		20		42.0
	21		70.3		21		90.7		21	4	61.2(60.4)		21	4	71.9(35.9)
	22	4	82.7(65.7)		22	4	84.1(79.7)		22		76.4		22		46.2
	23		72.4		23		65.5		23	4	73.9(69.1)		23	4	42.6(33.0)
第3問	24	4	41.2(39.0)	第3問	24	4	50(48.4)	第3問	24	4	47.3	第3問	24	4	59.3
	25		61.7		25		51.6		25	4	46.6		25	4	56.4
	26	4	82.6(60.0)		26	4	61.7(49.4)		26	4	23.7		26	4	42.5
	27	5	57.9		27	4	80.6		27	4	71.6		27	4	82.6
	28	5	69.8		28	4	62.6		28	4	85.4		28	4	73.8
	29	6	88.4		29	5	83.6		29	5	61.1		29	5	49.0
	30	6	72.3		30	5	67.0		30	5	72.6		30	5	63.2
第4問	31	6	82.3	第4問	31	5	80.4	第4問	31	5	49.3	第4問	31	5	40.7
	32	6	65.1		32	6	79.9		32	6	31.0		32	6	68.2
	33	6	67.4		33	6	66.3		33	6	66.2		33	6	44.2
	34	6	58.7		34	6	63.3		34	6	58.8		34	6	30.1
	35	6	91.0		35	5	63.4		35	5	74.2		35	5	65.8
	36	6	60.9		36	5	75.1		36	5	65.2		36	5	51.5
	37	6	55.8		37	5	56.2		37	5	73.4		37	5	59.9
第5問	38	5	67.8	第5問	38	5	19.9	第5問	38	5	70.5	第5問	38	5	70.7
	39	5	69.4		39	5	33.6		39	5	86.1		39	5	58.8
	40	5	68.5		40	5	56.3		40	5	81.8		40	5	79.5
	41	6	64.6		41	5	73.5		41	5	76.0		41	5	70.9
	42	6	75.8		42	6	72.3		42	6	72.2		42	6	74.4
	43	6	79.7		43	6	80.4		43	6	72.3		43	6	84.0
	44	6	54.7		44	6	71.3		44	6	74.8		44	6	65.6
第6問	45	6	56.0	第6問	45	6	52.4	第6問	45	6	77.5	第6問	45	6	85.5
	46	6	57.7		46	6	50.3		46	6	83.1		46	6	62.7
	47	6	53.4		47	6	86.8		47	6	73.0		47	6	72.6
	48	6	39.3		48	6	69.6		48	6	47.1		48	6	44.1
	49	6	55.6		49	6	72.8		49	6	57.8		49	6	73.3
	50	6	69.4		50	6	45.7		50	6	44.1		50	6	68.6
	51		44.4		51	6	62.7		51	6	63.3		51	6	66.3
	52		57.3		52		83.7		52		81.4		52		80.5
	53	6	54.3		53		83.0		53		52.9		53		62.5
	54		38.0		54	6	53.8		54	6	54.8		54	6	68.4
	55		54.5(23.4)		55		58.3(49.8)		55		72.3(48.5)		55		79.8(56.8)

※()内の数字は、完答の正答率を表す

正解率が低い問題よりも、高い問題を確実に解いていくことが大切である。例えば、正解率 60%以上の問題を解くだけで平均点以上、50%以上の問題が解ければ高得点が保証される。

『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)及びセンター試験による公表された資料を参考に作成

年 度	2005		2006		2007		2008		2009		2010	
	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合
正答率60%以上を得点したと仮定	121	61%	143	72%	161	81%	136	68%	114	57%	116	58%
正答率50%以上を得点したと仮定	165	83%	187	94%	181	91%	186	93%	154	77%	176	88%
全国平均点	116.2	58%	127.5	64%	131.1	66%	125.3	63%	115	58%	118.1	59%
年 度	2011		2012		2013		2014		2015		2016	
	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合	得点	割合
正答率60%以上を得点したと仮定	138	69%	140	70%	132	66%	138	69%	125	63%	120	60%
正答率50%以上を得点したと仮定	166	83%	176	88%	184	92%	178	89%	145	73%	150	75%
全国平均点	122.8	61%	124.1	62%	119.2	60%	118.9	59%	116.2	58%	112	56%

上記の表から、難問が解けなければならないというのではなく、正解率が高い問題を丁寧に、確実に解けるようになることが目標点に到達する秘訣と言える。やはり、基本をおろそかにせず、日々の学習を通して基礎力を身に付ければ、十分にセンターに対応できることが証明される。

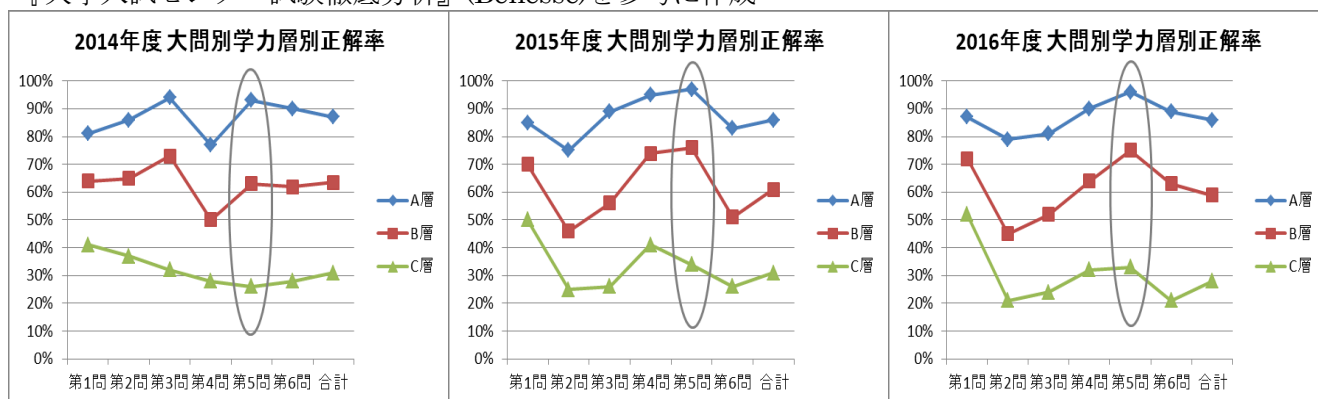
では、英語を苦手とする生徒と、英語を得意とする生徒との間の差は、センター試験では、どのような違いとなって現れるのかを見ていきたい。次に示すのは、大問別の正解率である。

『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)を参考に作成

2012				2013				2014				2015				2016			
大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率	大問	配点	平均点	正解率
1	14	9.3	66%	1	14	9.8	70%	1	14	9.2	66%	1	14	10.0	71%	1	14	10.2	73%
2	41	26.7	65%	2	41	27.9	68%	2	44	29.6	67%	2	44	22.2	50%	2	44	22.0	50%
3	46	31.4	68%	3	46	32.4	70%	3	41	29.8	73%	3	41	24.8	60%	3	41	22.4	55%
4	33	22.8	69%	4	33	22.7	69%	4	35	18.9	54%	4	35	26.4	75%	4	35	22.9	65%
5	30	22.6	75%	5	30	19.8	66%	5	30	19.6	65%	5	30	22.8	76%	5	30	22.3	74%
6	36	20.1	56%	6	36	17.9	50%	6	36	23.2	64%	6	36	20.0	56%	6	36	22.9	64%
全体	200	124.1	62%	全体	200	119.2	60%	全体	200	118.9	59%	全体	200	116.2	58%	全体	200	122.7	61%

1 問に対する配点は、第 4 問、第 5 問、第 6 問が高く、ここでどれだけ間違いをせず、確実に問題を解けるかが合計点を左右すると言っても過言ではない。大問別正解率を見ると、それほど大問ごとの正解率に差がないように思われるが、受験生の学力層によって差が出る大問が存在することに注意したい。

『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)を参考に作成



A 層：偏差値 60 以上

B 層：偏差値 40 以上～60 未満

C 層：偏差値 40 未満

特に受験生の学力層によって差が付きやすいのが第5問である。A層やB層が第5問で正解率を上げていくのに対し、C層はそうではなく、時に下げる傾向にあることがわかる。他の大問と異なり、第5問からは長文読解問題となり、1つの小問を解くために読まなければならない語数が増える。これがC層の正解率低下の主な理由と考えられる。特に2016年度（厳密に言えば2015年度の追試）から、第5問は物語が出題されている。多読などの学習法を通して、語数の多い英文を読むことに日頃から慣れておくことが正解率を上げるカギとなろう。

語数

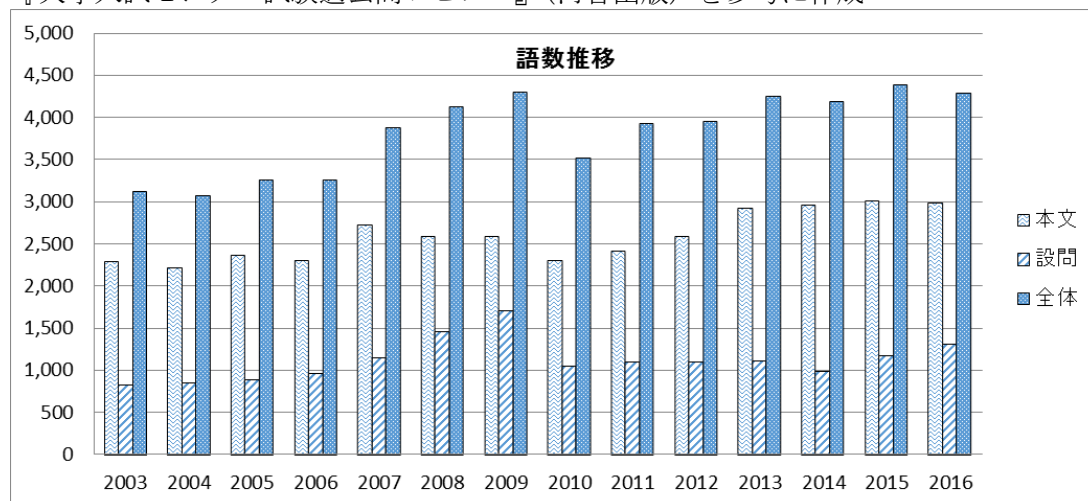
センター試験が始まって以来、総語数は増える傾向にある。これは、今後ますます情報化する社会において、ある程度の量の情報を、決められた時間内に正確に処理する能力が求められていることの反映であろう。センター試験の筆記（本試）における、近年の語数変化を見ていくことにする。

『大学入試センター試験過去問レビュー』（河合出版）を参考に作成

年度	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
本文	2,290	2,212	2,368	2,306	2,720	2,590	2,583	2,296	2,414	2,588	2,917	2,960	3,006	2,984
設問	825	852	890	956	1,151	1,453	1,704	1,047	1,095	1,094	1,110	985	1,166	1,304
全体	3,115	3,064	3,258	3,262	3,871	4,130	4,294	3,520	3,923	3,956	4,251	4,187	4,385	4,288

※年度以外、数字は語数を表す

『大学入試センター試験過去問レビュー』（河合出版）を参考に作成



10年前と比べ、近年の語数は1,000語程度増加していることがわかる。また、設問の語数も増加傾向にあり、設問を読む際にも、ある程度の速さで必要な情報を正確に得る力が必要とされる。

2016年度（2015年度追試）では、第5問で物語が出題されたことを先に言及した。2007年度まで第6問で物語が出題されており、その物語文の平均語数は1,000前後であったことを考えると、来年度以降、引き続き第5問で物語文が出題されると前提した場合、語数が増えることが予想される。センター試験は、新しい問題を出題した際、その年度の問題は比較的簡単にするが、翌年度以降、その問題が定着すると、難易度を上げてくる傾向にある。市販されているセンター試験対策問題集等は、おそらく2016年度あるいは2015年度追試の問題を基に作問されると思われる。よって、語数はそれほど変わらないものとなるであろう。次年度以降、第5問の物語文における語数の増加を予想し、語数の多い物語文の読解

力を身に付けたいならば、センター試験過去問題の 2007 年度までの第 6 問を解くのも 1 つである。

『Kei-Net』（河合塾）のデータを参考に作成

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
第1問	132	169	140	164	136	31	28	31	28	28	28	28
第2問	348	359	425	424	525	469	390	476	525	511	480	479
第3問	615	668	975	1,202	1,149	905	943	1,014	1,190	1,012	1,159	1,131
第4問	588	533	670	787	663	708	725	860	846	898	1,010	1,015
第5問	524	523	657	435	639	542	787	832	821	845	854	877
第6問	1,053	1,010	1,004	1,118	1,182	865	891	833	841	893	854	758

※年度以外、数字は語数を表す

※第 1 問において、2010 年度から語数が減った理由は、2009 年度までは文中における単語の強勢の位置が出題されていたが、2010 年度からは単語のみの強勢の位置が出題されるようになったからである

第 6 問に関して語数の減少傾向にあることがわかる。来年度では、第 5 問と第 6 問を入れ替え、物語文を 2007 年度まで行われてきたように第 6 問に置き、語数を 1,000 語程度にして第 6 問の語数を増加することも考えられる。大問等の入れ替えは、センター試験ではしばしば行われることで、例えば 2014 年度本試では第 2 問 B で出題された問題が、2015 年度では第 3 問 A で出題されたことが記憶に新しい。大問は、語から文、文から段落へと、語数を徐々に増やして配列されることから、語数の一番多いものを最後の大問にすることは、テスト理論においても妥当性があり、来年度にそのような配列になる可能性はある。

ここで注意したいのは、語数が増加すると、正解率が下がると思われがちであるが、実際はそうとは限らないということである。例えば、2013 年度の第 3 問は、2012 年度第 3 問と比べ、出題形式・配点は変わらず、語数のみ約 180 語増加という変化があったが、正解率は 68% から 70% へと上がっている（河合塾の設問分析では、語数が増加したため、難易度は“やや難”とあったが、実際は反対であった）。リスニング試験においても同様のことが言える。例えば、第 3 問 A について、2009 年度では平均 165wpm であったのに対し、2010 年度では平均 195wpm と、読み上げ速度が急激に上がった問題があった。その差が約 30wpm あったにもかかわらず（問 15 は、207wpm と最速）、正解率は 86% と高かった（ちなみに第 4 問 A 問 20 は 127wpm と最も遅かったが、正解率は 79%）。このような例から、語数増加や読み上げ速度よりも、内容によって、正解率が変わる場合もあるということに注意したい。

センター試験（英語）大問別の分析

第 1 問

第 1 問は設問 1 つに対し、配点が 2 点と低い。ただ、生徒たちのセンター試験の結果を長年にわたって見てみると、第 1 問の正解率と全体の正解率に相関関係があることが多い。これは、日頃から単語を覚える際、日本語訳だけでなく、発音・アクセントも一緒に覚える生徒は、丁寧に繰り返し復習するという習慣を持ち、1 点でも大切に得点していこうとする姿勢を持っているからであろう。積み上げられてきた日頃の学習の成果が出る大問とも言える。正しく読めない英単語は、綴りや意味が覚えられないのは当然である。漢字が読めなければ、その漢字が書けないのと同じである。日頃から電子辞書や携帯アプリなどを使って、発音を聞きながら音読をして英単語を覚える習慣を身に付けたい。目だけで覚えるのではなく口で覚えることが大切である。また、発音・アクセントの規則を覚えるのも有効であろう。

第1問Aは発音の問題である。a (ancient, damage, calm など) や ou (doubt, though, rough など) のような母音, ch (chance, stomach, machine など) や s (loose, lose, sugar など) のような子音は, 読み方が複数あるので注意したい。次の表は 1992 年度から 2016 年度までの本試と追試において, 発音問題として出題された英単語, 計 513 個をリストにしたものである。

第1問A 発音問題で出題された英単語 (アルファベット順)

年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語
2007	本試	abroad	1996	追試	capable	2011	追試	determine	2011	本試	glow	2016	追試	lot	1994	追試	psychology
2009	本試	absorb	1992	本試	capital	2008	追試	device	2016	追試	go	1998	本試	love	2012	追試	puppy
2013	追試	absorb	1992	追試	castle	2011	追試	digest	2007	本試	graphic	2011	追試	luggage	1994	本試	quiet
1994	追試	access	2013	本試	castle	1995	追試	disappeared	2010	追試	great	1996	本試	machine	1992	追試	rapid
1994	追試	account	2014	本試	casual	1995	追試	disappointed	1992	本試	grow	1996	追試	machine	2011	追試	rather
1994	追試	accuse	2008	本試	cease	2000	追試	discovery	1993	本試	guess	2010	追試	machine	1994	本試	raw
2012	本試	accuse	2000	追試	celebration	1993	追試	discuss	2014	本試	habit	2015	追試	machinery	1995	本試	reached
2015	追試	achieve	1992	追試	challenging	1997	追試	dish	2009	追試	hallway	1992	本試	major	1998	本試	read
1994	本試	action	1996	本試	chance	1993	本試	distinguish	2015	本試	handle	2011	本試	manage	1998	本試	read
1997	追試	advice	2008	本試	character	1997	追試	doctor	2015	本試	handsome	2013	追試	management	1994	追試	readily
2012	追試	advised	2008	本試	cheer	1998	追試	don't	1992	追試	haste	1992	追試	marvelous	1998	本試	ready
1992	追試	adviser	2008	本試	chemical	2008	本試	double	1995	本試	Haunted	2015	追試	mathematics	2008	本試	reason
1993	追試	agent	1994	本試	chemistry	1993	本試	doubt	2015	追試	headache	2010	本試	measure	2010	追試	receipt
1992	本試	allow	2011	本試	chemistry	2009	本試	doubt	1993	本試	heart	2000	本試	medicine	1993	本試	recent
2008	追試	allow	1994	本試	chimney	2013	追試	doubt	2010	本試	heart	2013	本試	medium	2011	追試	refine
1993	本試	although	1997	本試	choose	1999	本試	down	1994	本試	hive	1992	本試	message	2012	追試	regard
2014	追試	although	2016	本試	church	2010	追試	dread	2012	追試	holy	2011	追試	message	1993	本試	regular
2012	本試	amuse	2014	追試	cinema	2009	本試	eager	2008	本試	honest	2013	本試	meter	2015	追試	relieve
2015	本試	ancestor	2012	本試	circumstance	2010	本試	earn	1993	追試	honesty	2012	本試	mighty	1996	追試	relieved
1993	本試	ancient	2007	本試	classic	2014	本試	ease	2012	追試	honor	1992	追試	minister	1994	追試	religion
2015	本試	ancient	2014	本試	classic	2015	追試	echo	1994	追試	hood	2014	追試	minor	1994	追試	repair
2007	本試	approach	2000	本試	climate	2007	本試	efficient	1999	本試	hood	1997	本試	minute	2016	追試	resigned
1996	本試	arche	1995	追試	close	2008	追試	embarrass	2015	本試	hook	1992	追試	misery	2007	追試	resist
1996	本試	Architecture	1997	本試	close	2011	本試	enclose	2012	追試	horn	2015	本試	mission	2007	追試	resolve
2011	追試	argue	1997	本試	close	2011	追試	engage	2012	追試	horror	1993	追試	moment	2011	本試	resolve
1993	本試	argument	2007	追試	closely	2012	本試	enough	2010	追試	hour	2011	本試	monarch	2014	追試	ritual
1992	追試	ashamed	1998	追試	cloth	2015	本試	expansion	1996	本試	house	1998	追試	Monday	1998	本試	rose
2008	追試	aside	1998	追試	cloth	2009	追試	extreme	2011	本試	housing	1993	本試	mood	1992	本試	rough
2016	追試	assign	2011	追試	clothe	2012	本試	facility	2012	追試	hunger	1993	追試	muscle	2009	追試	rough
1992	追試	assistance	1994	本試	coast	2010	本試	faith	2016	本試	illegal	1992	追試	museum	2012	本試	rough
1992	本試	assume	2007	本試	coast	1992	本試	false	1992	本試	imagine	1994	本試	myth	1994	本試	route
1994	本試	assure	2014	追試	coast	1992	追試	fasten	1994	追試	imperial	1994	本試	natural	1998	本試	row
2007	本試	assure	1993	追試	cold	2012	追試	father	2011	本試	increase	1994	本試	naughty	1992	本試	rude
1995	本試	attacked	1994	追試	collapse	2010	追試	fault	2013	追試	input	2000	本試	nevertheless	2012	本試	rude
2016	追試	average	2016	追試	comb	1992	追試	favorable	2011	本試	instance	2009	本試	newborn	1992	本試	sacred
2009	追試	awkward	2011	追試	combine	2012	本試	feather	2008	追試	instinct	2015	追試	northern	1999	追試	sail
2012	追試	baggage	2009	本試	comfort	2012	本試	federal	1992	追試	instrument	1994	本試	notice	1998	追試	sailboat
2013	本試	basic	2000	本試	competition	1992	追試	fever	2013	本試	insurance	2016	本試	occur	1998	追試	sale
2012	追試	bathed	2009	追試	complete	1993	本試	financial	2013	追試	iron	2014	本試	onion	2010	追試	salmon
1993	本試	beard	2000	本試	completely	1993	追試	finger	2008	追試	island	2016	追試	only	1993	追試	scatter
1998	本試	beautiful	1994	本試	confess	1996	追試	flash	2008	追試	island	2011	本試	ostrich	1993	追試	scenery
2000	追試	behavior	2015	本試	confusion	2014	追試	float	2013	追試	island	2014	本試	oven	2000	本試	scenery
2007	追試	beneath	1994	本試	conquer	1993	本試	flood	1992	追試	isolate	1993	追試	parent	2010	追試	scent
2000	追試	blanket	1994	本試	conquest	2015	本試	flood	2013	追試	item	1997	本試	passe	1994	本試	scholar
1994	追試	blood	1993	追試	conscious	1993	本試	floor	1994	追試	justice	1994	本試	passion	2011	本試	scholar
1999	本試	blood	1997	本試	convenient	1993	追試	flour	2011	追試	justify	2011	本試	passion	1994	本試	scissors
1994	本試	blossom	2000	追試	cotton	2010	追試	flour	1992	本試	knowledge	1996	追試	patient	2000	追試	scratch
2011	本試	boast	2011	本試	couch	2008	追試	flow	2014	本試	label	2014	本試	pause	1995	本試	screamed
2010	本試	boot	1992	本試	cough	1999	追試	fly	1993	本試	language	1993	本試	pearl	2010	本試	search
2000	追試	bother	2009	追試	cough	2010	追試	folk	2009	追試	laugh	2010	本試	pearl	1994	追試	seize
1996	本試	bought	2003	本試	country	1993	追試	formal	2012	本試	laughter	2016	追試	percentage	1992	追試	sentiment
2016	本試	bounded	2016	追試	courage	2009	本試	formal	2009	追試	laundry	1998	追試	perhaps	2013	本試	serious
1999	本試	bow	1996	本試	cousin	2011	本試	format	1995	本試	lead	1992	本試	permission	2012	追試	shaped
1999	本試	bow	2008	本試	cousin	1995	追試	fouled	1995	本試	lead	1992	本試	permission	1994	追試	shepherd
1992	本試	bowl	1992	本試	coward	2016	本試	founded	2009	追試	leader	2007	本試	phrase	2000	本試	shiver
2010	本試	breadth	2007	追試	creature	2009	本試	fragile	2008	本試	leaf	1994	追試	physics	2015	本試	shook
1997	本試	breath	1992	追試	crisis	2000	追試	frame	2010	追試	lease	2010	本試	physics	1993	本試	shoot
2008	本試	breath	2008	追試	crisis	2000	本試	frequently	2011	追試	leather	1995	追試	pitched	2014	追試	sigh
2007	追試	breathe	2008	追試	crowd	2011	追試	fridge	2010	本試	leisure	2007	追試	pleasant	2000	本試	sightseeing
2015	追試	breathe	2012	追試	cultivate	1999	追試	friend	2010	本試	length	1992	追試	pleasure	2016	追試	signature
1997	本試	breathing	1994	追試	cupboard	2015	追試	furthermore	2011	追試	lengthen	2009	追試	pleasure	1994	追試	sincerely
2014	追試	broad	2016	本試	curious	2012	本試	future	1994	本試	liquid	1992	追試	police	1993	追試	singer
2008	本試	brother	2016	本試	curtain	1993	追試	garage	2012	追試	listed	2008	追試	pound	1998	追試	small
1992	追試	brought	2012	本試	cute	2011	追試	garbage	2014	追試	litter	1993	追試	pour	1994	追試	smooth
1992	本試	brush	1993	追試	danger	2012	本試	gender	1997	追試	live	2010	追試	pour	2010	本試	smooth
1994	追試	bullet	1993	本試	dear	2012	本試	gene	1997	追試	live	2014	本試	praise	1994	追試	soccer
1992	本試	bury	2009	本試	debt	2013	本試	generate	2014	追試	loan	1994	追試	prepare	2007	本試	social
2012	追試	bury	2013	追試	debt	2013	本試	genius	2016	本試	logical	1992	追試	president	1993	本試	society
1992	本試	bush	2012	本試	decay	1992	本試	ghost	1998	本試	look	1992	追試	pretty	1993	追試	sour
1994	追試	button	1993	本試	decorate	2007	本試	ghost	2014	本試	loose	1992	追試	pride	2010	追試	sour
1996	追試	calculating	2015	追試	defeat	2009	本試	ginger	1995	追試	loose-leaf	2015	本試	profession	1993	追試	source
2010	追試	calf	2016	追試	designer	1993	追試	glove	1995	追試	lose	2010	本試	proof	1993	追試	southern
2012	追試	calm	1992	本試	dessert	2014	本試	glove	1997	追試	lose	2014	本試	prove	1996	本試	southern
															2007	追試	southern
																	younger

※1990・1991・2001・2002・2003・2004・2005・2006 年度は発音問題の出題がなかったため, 上記のリストには収録されていない

まずは過去に出題された英単語から発音問題に取り組むのも良いだろう。

第1問Bはアクセントの問題である。

第1問B アクセント問題で出題された英単語（アルファベット順）

年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語	年度	区分	英単語
2016	本試	abandon	1994	本試	ceremony	1994	本試	diameter	2012	本試	fatigue	1990	追試	lemon	1997	追試	percent
2003	本試	absent	2006	追試	challenge	1991	本試	differ	1994	追試	festival	1991	追試	lemon	2000	追試	percent
2016	追試	academy	2013	追試	challenge	1998	追試	difference	2011	追試	final	2007	本試	librarian	2013	本試	percent
1998	本試	accept	1999	追試	character	2015	本試	dinosaur	2010	追試	financial	1992	本試	literature	1997	本試	perform
2015	本試	accompany	2016	本試	charity	2008	追試	direction	1990	追試	forget	2016	追試	logic	2013	追試	perform
2015	追試	account	1995	本試	circumstance	2011	本試	disadvantage	1991	追試	forget	2001	追試	luxury	2007	追試	period
1990	追試	accuracy	2015	追試	circumstance	2006	追試	disagreement	2002	本試	forget	1993	本試	machine	1999	本試	permanent
1991	追試	accuracy	2008	追試	citizenship	2012	本試	disagreement	2010	本試	fortunately	1999	本試	maintain	2007	追試	personal
1993	本試	accuracy	2016	本試	civil	2015	本試	discipline	2001	追試	function	1995	追試	maintenance	2009	追試	perspective
2016	追試	accuracy	1995	追試	coffee	2015	追試	discover	1993	追試	fundamental	1990	追試	manage	2013	追試	phenomenon
1990	本試	accurate	2011	追試	collision	2016	本試	discovery	2009	本試	fundamental	1991	追試	manage	1990	追試	philosophy
2008	本試	accurately	2001	本試	colorful	2016	追試	discriminate	2014	本試	funeral	2001	追試	manager	1991	追試	philosophy
2013	本試	accurately	2008	追試	combination	2010	追試	discuss	2007	本試	furniture	2012	追試	manager	2007	本試	philosophy
2009	本試	accustom	1990	本試	comfort	1995	追試	disease	2012	本試	geography	2010	本試	manufacture	2016	本試	philosophy
1996	追試	acquaintance	2005	本試	comfortable	2011	本試	disease	1993	追試	government	2007	本試	material	2006	本試	photograph
2012	追試	active	2004	本試	comment	2001	本試	disgust	1993	追試	grammatical	2016	本試	material	2013	本試	photograph
1990	追試	activity	1996	追試	commit	1999	本試	distinct	2008	本試	grammatical	2008	本試	mathematics	1994	本試	photographer
1991	追試	activity	2015	追試	committee	1994	追試	disturbance	2004	追試	greenhouse	2007	追試	mechanical	2007	追試	physical
1993	追試	additional	1998	本試	communicate	1994	追試	dolphin	2010	本試	guarantee	1990	本試	medical	2007	追試	pineapple
2014	追試	additional	1993	本試	community	2014	本試	domestic	2007	追試	hamburger	1996	追試	melancholy	1996	本試	poetic
2008	本試	adequate	2007	追試	community	2001	本試	drama	2013	本試	hamburger	2009	本試	melancholy	1991	本試	policeman
2013	追試	adequate	2008	本試	community	1991	本試	dramatic	2000	追試	hardly	2007	追試	memorial	2012	追試	politely
1996	本試	admirable	1994	追試	competition	2013	本試	dynamic	1995	本試	heroine	2016	追試	memorial	2006	本試	political
1993	追試	admire	2013	追試	competition	2006	本試	ecological	1991	本試	hesitate	1993	本試	message	1998	追試	politician
2006	追試	admire	2005	本試	complain	2012	追試	economic	1997	本試	hesitate	2016	追試	method	2011	追試	politician
2015	本試	admire	1996	本試	complicated	1993	本試	economy	1993	追試	historical	2016	追試	ministry	1996	追試	politics
2010	追試	advantageous	2015	本試	complicated	1992	本試	effect	2013	本試	historical	1995	本試	minute	2007	追試	politics
1998	追試	adventure	2015	本試	component	2007	本試	effective	2013	追試	honest	1997	本試	mistake	2016	本試	politics
2000	本試	advice	1990	追試	concentrate	1997	追試	effort	2007	本試	horrible	2009	追試	misunderstand	2009	本試	popular
1990	追試	advise	1991	追試	concentrate	2010	本試	effort	1991	本試	humorous	2012	本試	modern	1990	追試	portrait
1991	追試	advise	1999	本試	concentrate	1990	本試	electric	2007	本試	identity	2015	本試	modest	1991	追試	portrait
1999	追試	agent	2010	追試	concentrate	2012	本試	electronics	1992	本試	identity	1993	追試	monument	2016	本試	potential
2016	本試	agriculture	2004	追試	concern	1995	追試	elegance	2012	本試	identity	1994	本試	mosquito	1999	追試	practical
1995	追試	allowance	1998	追試	conditioner	2003	追試	elevator	1995	追試	ignorance	2010	本試	museum	1991	本試	prefer
2015	追試	alternative	2003	追試	conduct	2010	本試	elevator	2011	本試	ignorant	1991	本試	musician	1997	追試	prefer
1996	追試	ambassador	2014	本試	conference	2014	本試	eliminate	2012	本試	ignorant	2012	本試	musician	2010	本試	prefer
2015	追試	ambassador	1996	本試	confident	2005	本試	embarrassed	1996	追試	ignore	1990	本試	mysterious	2011	追試	prejudice
2015	本試	ambitious	2015	追試	confident	2007	本試	embarrassment	2012	追試	illustration	1998	本試	mysterious	1995	追試	present
1991	本試	ancestor	2012	追試	congratulate	1990	本試	emotional	1993	本試	image	2004	追試	mysterious	2002	追試	present
2013	追試	anticipate	2001	追試	connect	2007	追試	emotional	1992	本試	imitate	1996	本試	necessary	2015	本試	preserve
2014	追試	appointment	2000	追試	conquer	1993	追試	employment	1994	本試	immigrant	1992	本試	necessity	2007	追試	president
2010	本試	appreciate	2000	本試	conscious	2009	追試	employment	1998	追試	impossible	1993	追試	neglect	2014	本試	priority
1996	本試	appropriate	1993	追試	consent	2013	本試	encourage	2009	本試	impression	2015	追試	negotiate	2001	本試	problem
2015	本試	appropriate	2015	本試	consequence	1990	追試	energy	1995	本試	impulse	1999	追試	network	2007	追試	professional
2009	追試	architecture	1993	本試	consider	1991	追試	energy	2011	追試	incident	2004	本試	network	1990	本試	program
2013	本試	architecture	1995	追試	content	1997	本試	energy	2015	追試	income	2012	追試	nevertheless	2003	本試	progress
2001	追試	argue	2016	本試	continent	2009	追試	energy	2009	追試	independent	2009	追試	newspaper	1991	本試	progressive
2008	本試	argument	1991	本試	continue	2013	本試	energy	1992	追試	indicate	1997	追試	novel	1991	本試	prohibit
2013	追試	artificial	2001	追試	continue	2008	追試	engineer	2007	本試	indicate	2000	本試	novel	2015	追試	prohibit
1996	本試	artist	2013	本試	continue	1992	追試	engineering	2003	本試	industrial	2014	本試	novel	2002	追試	project
1996	本試	aspect	1991	本試	control	2008	追試	engineering	1990	追試	industry	2001	追試	nowadays	2002	追試	proposal
1991	本試	assistant	2005	追試	convenient	2013	追試	engineering	1990	追試	industry	2005	追試	object	2014	追試	proposal
1998	追試	astronaut	2002	追試	convince	1991	追試	enjoy	1991	追試	industry	2010	本試	objective	2011	本試	prosperous
1994	追試	astronomy	2010	本試	convince	2000	本試	enough	2007	追試	industry	2010	本試	objective	2003	追試	protest
2012	本試	athlete	1994	追試	cooperate	1993	本試	entertain	1995	本試	infant	1990	本試	obvious	1990	本試	provide
1998	追試	atmosphere	2010	追試	cooperate	2004	追試	entertain	2016	追試	infect	2016	追試	obviously	2007	本試	psychology
2014	本試	atmosphere	1994	追試	copper	2012	本試	entertain	2011	本試	infect	2010	追試	obviously	1997	追試	psychology
1997	追試	attitude	1994	追試	corridor	2011	追試	entertainer	1990	本試	influence	1992	追試	occupy	2016	追試	psychology
2010	追試	attitude	1994	本試	corrupt	2014	追試	entertainment	2013	追試	influential	1992	追試	occupy	1993	追試	purchase
2014	本試	audience	1992	本試	criticize	1990	本試	envelope	2011	追試	influenza	2011	本試	occur	2016	本試	purchase
2009	本試	authority	1995	本試	crysal	2007	本試	envelope	1996	追試	inform	1997	本試	offer	1997	本試	purpose
2012	本試	automobile	1991	本試	custom	1996	追試	environment	2010	追試	information	1996	追試	offer	2011	追試	purpose
2011	追試	avenue	1997	本試	damage	2007	本試	environment	2015	本試	ingredient	1991	本試	official	1994	本試	pyramid
1991	本試	balance	2010	本試	damage	2011	本試	epidemic	2010	追試	inhabitant	1999	追試	official	2007	追試	quality
2010	追試	balance	2016	本試	decision	2016	追試	episode	2016	追試	initial	2013	追試	official	2013	追試	quantity
2001	本試	balcony	2016	追試	declare	1990	追試	episode	2016	追試	injure	2012	追試	official	2007	本試	recognize
2007	本試	beautiful	2013	本試	degree	1991	追試	episode	2013	追試	insect	2009	本試	operate	2016	追試	recognize
2007	本試	benefit	1992	追試	delay	2014	本試	equipment	1992	本試	insect	2013	本試	operator	2010	本試	recommend
2013	追試	benefit	2012	追試	deliberate	1992	本試	essence	1990	本試	insist	1990	本試	opinion	1995	追試	record
2007	本試	bicycle	1996	本試	delicate	2013	本試	essential	2007	本試	insist	2007	追試	opponent	2002	本試	record
1994	本試	biography	2014	追試	delicious	1992	本試	estimate	2000	本試	insist	2016	本試	opponent	1994	追試	recovery
1996	本試	boycott	1990	追試	delight	2016	追試	ethnic	2016	追試	institution	2007	本試	opposite	1991	本試	regret
2015	追試	broadcast	1991	追試	delight	1990	本試	event	2007	本試	instrument	2014	追試	organic	2016	追試	regularly
2012	本試	calculate	1992	追試	deliver	1997	本試	examine	1995	本試	insult	1992	追試	organize	2000	本試	relate
2009	本試	calendar	1990	追試	democracy	1996	追試	excursion	2005	本試	insult	2014	本試	origin	2007	追試	relationship
1996	本試	canal	1991	追試	democracy	2016	追試	exhibition	2007	本試	intelligent	2007	追試	original	2014	追試	relationship
1995	本試	canary	1993	本試	democracy	1991	本試	exercise	1993	本試	interpret	1993	追試	ornament	2013	本試	relative
1995	追試	canoe	2008	追試	democracy	2007	追試	exhibition	2013	追試	interpret	2011	追試	outward	1995	本試	relief
2007	本試	capacity	2003	追試	demonstrate	1998	本試	experience	1992	本試	interrupt	1991	本試	parade	1990	追試	religion
2009	追試	capacity	2015	追試	demonstrate	2007	追試	experience	2012	追試	interval	2014	本試	parade	1991	追試	religion
1992	追試	career	2016	本試	demonstrate	1992	本試	experiment	1991	本試	interview	2009	追試	participant	2012	本試	religion
1999	追試	career	1996	追試	descendant	1998	追試	experiment	2007	本試	interview	2007	追試	participate	2001	本試	reluctant
2012	本試	career	2002	本試	desert	2009	追試	experiment	2014	本試	investigate	2008	本試	participate	2014	本試	reluctant
2010	追試	cassette	1994	追試	dessert	1998	追試	experiment	1994	本試	invest	1990	本試	particular	2007	本試	remarkable
2014	本試	category	2012	追試	destroy	2000	追試	explode	2007	本試	involve	2004	本試	particular	1993	本試	remember
2000	追試	ceiling	2015	本試	detective	2009	本試	experiment	2010	追試	isolation	1997	追試	passenger	1999	本試	republic
1990	追試	celebrate	1990	追試	develop	2007	追試	fantasy									

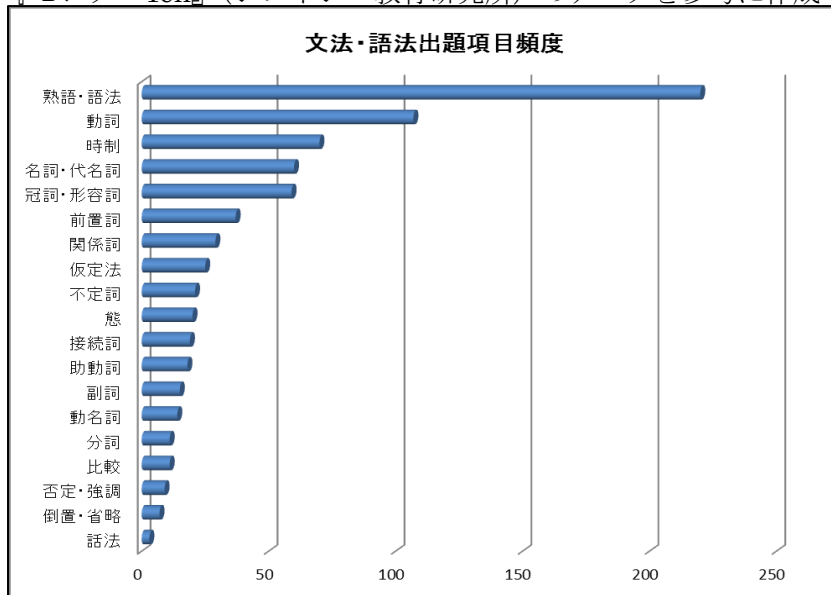
表は 1990 年度から 2016 年度までの本試と追試において、アクセント問題として出題された英単語、計 613 個をリストにしたものである。アクセント問題として出題された英単語、計 613 個の内、263 個は過去において複数出題されている。つまり、およそ 2.3 個に 1 個の割合で、同じ英単語が過去に出題されている計算になる。このことから、まずは過去にセンター試験で出題されたアクセント問題を練習することが得策と言える。特に、日本語の中に定着されつつある“エネルギー”や“キャリア”のようなカタカタ語は、実際の英語と発音やアクセントの位置が異なることが多いので注意したい。

第 2 問

第 2 問は①文法・語法、②語句整序、③応答文完成の問題である。たくさんの量をこなし、形式に慣れ、速く正確に問題を解く力を養うことがポイントとなる。第 2 問は、毎年正解率が低いので、ここでは少し詳しく説明したい。

第 2 問 A は文法・語法に関する問題が出題される。第 1 問に引き続き、知識問題となる。2014 年度からは、2 つの空所を補充させる問題が 3 問含まれるようになった。次に示すグラフは、1990 年度から 2016 年度までの本試・追試で出題された問題を出題項目ごとに分類したデータである。

『センターTen』（ジェイシー教育研究所）のデータを参考に作成



※問題によって項目が重複している場合があります、上記のグラフは実際の総問題数とは異なる

出題頻度が一番高いのは、熟語・語法である。日頃から語彙力を付ける際には、日本語のみ覚えるのではなく、英文を通してどのように使われるのかも注意を払いたい。例えば、次の 2012 年度本試で出題された、問 2 の熟語に関する語彙問題を考えてみたい。

(2012 年度本試)

Could you show me how to make mobile phone ring differently, () who's calling me?

- ① depending on ② in spite of ③ on behalf of ④ relying on

正解：①

depend on=rely on～「～に頼る」と参考書では表記されていることも多く、このようにイコールにして覚えている生徒もいるかもしれない。センター試験は、こういった覚え方に警鐘を鳴らしているということがわかる問題である。depend は de (下に) pend (ぶらさがる) というイメージがある。ぶらさがっている下のものは、上のものがなければ真逆さまに落ちることから、上のもの“次第”という意味が生じる。よって、depend は rely と同じ「～に頼る」という意味の他に「～次第」という意味も有する。なお、文意から「次第」を意味する①が正解となる。

語法とは語彙の使い方のことである。別の言い方をすれば、単語と単語の相性のことである。次の問題を考えてみたい。

I'm sleepy, so I'm going to drink a () cup of coffee. (2016 年度追試)

- ① deep ② dense ③ strong ④ tough

正解：③

コーヒーが「濃い」ことを表すのは strong である。dense も「濃い」ことを表すが、dense は密度の“濃さ”を表すことから、正解にはならない。このような問題は日本語訳を覚えるだけでは解けない。まさに、単語と単語の相性の問題である。語法が苦手な生徒は、正解以外の選択肢の単語も辞書などで調べると良いだろう。ジーニアス英和辞典で dense の項目を調べてみると、「濃いコーヒーは strong coffee」という記述がある(ちなみに、他の辞書では dense の項目に、このような記述が見られないことから、ジーニアス英和辞典の執筆者が作問に関わっていたか、あるいは作問者がジーニアス英和辞典を参考に選択肢を作成したという可能性がある)。辞書で調べる際には、意味だけでなく、その単語がどのような単語と、どのように使われるのかを調べてみると、語法の力を身に付けることができる。

文法に関しては、瞬時に問題を解ける力が必要になる。英語が苦手な生徒は、問題を見た瞬間、和訳をする傾向がある。文法問題は、英語のルールが問題になっているのであって、語彙が問題になっているわけではない。助動詞など、意味で区分しなければ解けない問題以外は、和訳をしなくても解けるのである。文法問題を解く上で重要なことは、どこに着目するかということである。例えば、使役動詞 have の後ろに“物”が来れば、その後ろは過去分詞形になる。この文法知識さえあれば、次の問題において、数秒で正解にたどり着ける。

If the pain in your throat becomes worse, have it () at once. (2006 年度本試)

- ① check ② checking ③ to check ④ checked

正解：④

ちなみに、have+物+過去分詞形がポイントになった問題は、1991 年度(本試)、1994 年度(追試)、1998 年度(本試)、2004 年度(本試)、2006 年度(本試)、2015 年度(本試)と、これまでに 6 回出題されている。繰り返し出題されるものも文法では存在するので、過去問題を解きながらその傾向をつかむことが大切である。

実は、同じ文法項目であっても、出題の偏りがあり、頻出するものがある。具体例を挙げると、関係詞がその一つである。関係詞は how, where, whose, whom, that, which など、実に多くあるが、2016

年度までに関係詞について出題された問題、計 29 問の中で、正解が **what** になる問題が 9 つ存在する。およそ 3 分の 1 の確率で関係詞は **what** が正解になる計算である。

(1993 年度本試)

A large proportion of () English-speaking people watch on TV is of American origin.

- ① that ② what ③ where ④ which

正解：②

関係代名詞 **what** は、しばしば **the thing which** とイコールになると習うことがある。単にイコール関係であることを覚えても、それを活用しなければ意味はない。ここでは見方を変え、名詞 2 つ分の働きをするということをおさえれば、このような種類の問題も数秒で解くことができる。例えば、() の後ろに主語のない動詞が 2 つあれば、その主語、つまり主語となる名詞も 2 つ必要になることから、1 語で名詞 2 つ分の働きをする **what** しか正解とならないことがすぐにわかる。上記の問題では、前置詞 **of** と他動詞 **watch** の目的語として、2 つの名詞が必要であることから、() には名詞 2 つ分の働きをする **what** を選ぶことができる。

英語は、語彙と文法が基本と言われている。センター試験の過去問題は良問が多いことから、文法・語法の基礎力を養うには最良の教材となろう。悪問が出題されることはまずないと言っても過言ではない。例えば、連鎖関係詞の問題を比べたい。

Many people criticized me, but I did what (). (1996 年度本試)

- ① I thought I was right ② I thought it was right
③ I thought was right ④ I was thought right

正解：③

That person is one () I think rescued the kitten. (2013 年度立命館大学)

- ① what ② where ③ who ④ whom

正解：③

センター試験は関係代名詞 **what** を連鎖関係詞と絡めて出題している。一方、立命館大学は、連鎖関係詞 **who** を正解とした問題を出題している。正解は **who** ではあるが、連鎖関係詞は省略されることもあり（目的格という認識をネイティブスピーカーが持つことから）、挿入された節 (**I think**) に引きずられてネイティブスピーカーであっても目的格を使う場合がある。英語学者 **Jespersen** は著書『**A Modern English Grammar III**』の中で、**We feed children who(m) we think are hungry.** を例に挙げ、**whom** を認めないとする文法家はいるが、くだけた表現として、ジャーナリストやライターによって頻繁に用いられていることに触れ、文学作品などで用いられている例を数多く示している。なお、次の英文は、コーパス（ネイティブスピーカーによって実際に用いられた言語を電子データ化したもの）で検索をかけて得られた一部である。

(BNC)

Indeed the Ards and Linfield contingents should have been, at least, spoken to by referee Herbie Barr, *whom I thought* had a below average game.

(COCA)

If those African American students *whom I thought* were truly bright were having similar problems, how could someone with average intelligence like me possibly make it through the program?

言語事実から判断すると、立命館大学の問題は、文学作品などで実際に用いられることもある *whom* を不正解としてよいのかという、疑問の余地がある。センター試験は、このような難問（あるいは判断が分かれる問題）はあえて避けて、答えが明白になるように *what* を正解にする問題を作成する点、良問と言える。センター試験が良問であることから、私立大学ではセンター試験の過去問題に酷似したものが出題されることがある。

(2000 年度追試)

I've been living () since I entered university, and I've had to learn to cook.

- ① by oneself ② for myself ③ on my own ④ with only one

正解：③

(2010 年度桜美林大学)

I've been living () since I entered university, and I've had to learn to cook.

- ① dependently ② lonely ③ alone ④ apart

正解：③

(1990 年度本試)

This river is dangerous to () in July.

- ① being swum ② swim in ③ swim it ④ swimming

正解：②

(2006 年度関西学院大学)

The river on the outskirts of this village is dangerous to () in August.

- ① being swum ② swim in ③ swim it ④ swimming

正解：②

このように入試問題は、センター試験の問題を借用する例や、他大学の問題を使い回しする例も多いため、入試によく出題される“頻出問題”が存在するのである。

第 2 問 B は整序問題である（空所が 2 箇所あり、完答）。6 個の語（句）を並び替える問題であるが（2013 年度（本試）、2012 年度（本試）、2008 年度（本試・追試）のように、年度によって 5 個の語（句）の場合もある）、センター試験は日本語訳が付いていないのが特徴である。進研模試もセンター試験に合わせて、1 年生の整序問題であっても日本語訳のない問題に変更された。特に整序問題を苦手としている生

徒は、日本語訳が与えられていない整序問題の参考書等を使って、数多くの問題をこなすことがセンター試験対策になる。実は、与えられた英文に対応する日本語訳がないほうがかえって解きやすいこともある。例えば、日本語訳が与えられていても、かなり意識されて混乱をまねく場合がある。

(2015 年度立命館大学)

心躍る開会式のありさまを聞いて、私は舌を巻いた。

I was (1 exciting 2 hear 3 how 4 opening 5 quite amazed 6 the 7 to) ceremony was.

正解：I was (quite amazed to hear how exciting the opening) ceremony was. 5→7→2→3→1→6→4

受験生にとって、「心躍る」を how exciting, 「私は舌を巻いた」を I was quite amazed と訳出されることを始めから予想することは容易ではない（英作文の力を身に付けたい場合には参考になる問題ではあるが）。日本語訳を与えることによって、受験生をいたずらに混乱させる上記のような異様な整序問題と比べると、センター試験の整序問題は良心的な問題と言える。

ではセンター試験の整序問題を効率的に解く方法を考えてみたい。6 個の語（句）を並び替える組み合わせは $6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 = 720$ 通りとなる。1 組わかれば $5 \times 4 \times 3 \times 2 = 120$ 通り、2 組わかれば $4 \times 3 \times 2 = 24$ 通り、3 組わかれば $3 \times 2 = 6$ 通りに激減し、正解率を上げられる。よって、1 つでも多く組み合わせることが整序問題を効率よく解く秘訣となる。組み合わせる際、“小さなかたまりを作ってから大きくそれをまとめる”ことと、“動詞（準動詞も含め）の組み合わせから考える”ことを意識したい。組み合わせの例として、「to+動詞の原形」、「助動詞+動詞の原形」、「接続詞+名詞（主語）」、「前置詞+名詞」、「冠詞（所有格）+名詞」、「be+分詞（進行形・受動態）」などがある。“小さなまとまり”を作るときには熟語力が、“大きくまとめる”ときには構文力があれば早く組み合わせることができる。完成したら、①全ての選択肢を用いたか、②意味が通る文になっているか、を忘れずに確認したい。最後の確認作業がしやすいよう、問題を解く際には、選択肢の番号を並べるだけでなく、実際に英語を書いてみることをおすすめする。なお、整序問題では、SVOC や後置修飾が狙われやすいので気を付けたい。

(2016 年度追試)

Ben: Hey, where did your energy go? You were so cheerful this morning.

Jim: I don't know. I guess listening to _____ () _____ () _____.

① boring ② lecture ③ made ④ me ⑤ the ⑥ tired

正解：①③ I guess listening to (the boring lecture made me tired). ⑤→①→②→③→④→⑥

1 つ問題を解いてみることにする。まず、動詞 guess に続く従属節の主語が動名詞 listening to であることから、前置詞 to の後ろに置かれる小さな名詞のまとまり the lecture を作る（同じ名詞でも、me は全体の文意に合わないので除外できる）。次に動詞を見つけない。可能性として made と tired が考えられ、どちらか一方が分詞であることに気付きたい。残った選択肢(boring)も分詞であることから、分詞を従え、SVOC 型を取る made が動詞と考えられる。O になるものは残った名詞 me となり、C には boring か tired、いずれかの分詞が入ることになる。感情を表す分詞は、意味上の主語（この場合は O になる me）が人の場合、過去分詞を取ることから、made me tired となる。残った現在分詞 boring は、形容詞

の働きをすることから、the boring lecture の組み合わせで、名詞 lecture を修飾すると判断できる。よって、全体は I guess listening to (the boring lecture made me tired)⑤①②③④⑥となる。最後の確認として日本語訳をすると、「つまらない講義を聞いたことが私を疲れさせたと思う（意識：退屈な講義を聞いて疲れてしまったんだと思う）」となり、意味が通じるので、この組み合わせが正解となる。

第2問Cは応答文完成問題である。2014年度追試から出題されるようになった問題形式であり、2016年度（本試・追試）も継続して出題されている。節や語（句）が3列に連なっており、それぞれの列にはAとBの2種類が並べてある。選択肢は8つあり、AとBの全ての組み合わせが用意されていることから、いずれかの組み合わせがわかれば必ずと正解がわかるということはない。過去の問題から考えると、左から順に（1列目から）解く方が得策であることが多い。ただし、1列目と2列目の関係ではなく、2列目と3列目の関係から解く場合もあることに注意したい。攻略は、全体の文構造に気付くことである。

Richard: Are you sure that Taro went to Chicago this summer?

(2016年度追試)

Gordon: Yes. Because he said so ().

(A) when I asked him	→	(A) if he had stayed	→	(A) America.
(B) when I talked to him		(B) if he had visited		(B) to America.

- ① (A)→(A)→(A) ② (A)→(A)→(B) ③ (A)→(B)→(A)
 ④ (A)→(B)→(B) ⑤ (B)→(A)→(A) ⑥ (B)→(A)→(B)
 ⑦ (B)→(B)→(A) ⑧ (B)→(B)→(B)

正解：③

この問題は、まず2列目以後、名詞節が続くことから（1列目は副詞節であり、when と if の副詞節が接続詞やカンマなしに連続することはないことから2列目は名詞節と判断する）、1列目は名詞節を取ることができる ask が含まれている(A)を選ぶことになる。次に2列目と3列目の関係を考える。stay は自動詞であるが、stay to という組み合わせは考えられない（stay「滞在する」は、“方向”という動的イメージを持つ前置詞 to「～へ」とは相性が悪いため）。よって、必然的に他動詞の visit が含まれる(B)を選択することで、2列目と3列目の組み合わせは(B)→(A)となり、正解は③になることがわかる。このように、第2問Cは、前後関係に着目しながら解くことが重要である。

第3問

第3問は①対話文完成、②不要文選択、③意見要約の問題である。この第3問から第6問までは、ある程度の語数の英文を読ませ、その文脈を把握する力が求められる。

第3問Aは対話文完成問題である。2013年度までは第2問で出題されていたが、2014年度追試から第3問で出題されるようになった。ABA, ABAB, ABABA という対話形式がほとんどであるが、2014年度本試から ABABAB という対話形式も出題され、2015年度追試も同様の形式が含まれていたことから、比較的長めの対話文に慣れておく必要もある（この形式の問題が1つも含まれていない参考書は、近年の傾向を反映していない古い（あるいは近年の傾向をつかめていない）参考書と言えるので、参考

書を購入する際の目安にすると良い)。なお、設問となる空所は会話全体の後ろの方にあり、会話全体の流れを理解した上で、空所の直前・直後に着目して解くことがポイントである。会話全体の流れを把握する上で、プラス・マイナスという概念を用いて選択肢を見ることも時に有効である。特に空所が形容詞の働きをする場合、形容詞は人の主観的判断を反映することから、プラス・マイナスのどちらかに分けて考えられる。空所がプラスかマイナスかに注目しながら解く方法を説明したい。

(2016 年度追試)

Hiro: Did you see Jim Black's latest movie?

Debbie: Yes, I did. The story was outstanding, but....

Hiro: What was wrong?

Debbie: Well, his acting was (). I can't believe that the studio cast him in that role.

Hiro: That's a shame.

- ① anything but excellent. ② far from unacceptable
③ unexpectedly wonderful ④ well above average

正解：①

上記の問題では、直前 (What was wrong?) の内容から、次の Debbie の発言は、マイナスの要素を含む内容になることが推測できる。選択肢に目を移すと、①anything but excellent「決してすばらしくはない」のみがマイナスの意味になる。よって、正解は①となる。この解法を使えば、消去法で選択肢を減らし、答えをしぼることもできる。次の問題は、先の問題のように空所が形容詞の働きをするものではないが、プラス・マイナスという概念を用いて内容を把握することによって正解にたどり着くことができる。

(2013 年度本試)

Brad: Excuse me, Mr. Tani. I'd like to hand in my assignment. I came yesterday, but you weren't here.

Mr. Tani: What time did you come?

Brad: About three in the afternoon.

Mr. Tani: So you still missed the deadline, didn't you?

() I can't accept it now.

- ① You don't have any homework today. ② You knew the paper was due by noon.
③ You were supposed to hand it in by today. ④ Your assignment wasn't important.

正解：②

上記の問題では、直前 (So you still missed the deadline「だったら、それでも期限に間に合っていないのでは」)・直後 (I can't accept it now「もうそれは受け取れないよ」) は、Brad にとってマイナ

スの内容であることから、当然、空所もマイナスの要素を含んだ内容になることが推測できる。選択肢は、②のみ **Brad** にとってマイナスの要素（「君は論文が午後までの提出であることを知っていた」ということは、先生に受け取ってもらえない理由になることから）を含んだ内容であることがわかる。よって、正解は②となる。会話全体を理解する上でも、プラス・マイナスを活用しながら読んでいくことは有効である。

なお、当然のことではあるが、対話文完成問題において、会話表現（会話で用いられる典型的な表現）をできるだけ多く覚えることも忘れてはいけない。対話文完成問題であっても、文法力はもちろんのこと、会話表現を含んだ語彙力を駆使して解くことも必要である。

(2014 年度本試)

Martha: What do you want to do this afternoon?

Ed: Well, how about going to that new movie?

Martha: Sure. It starts at three o'clock, doesn't it? I'll be ready.

Ed: On the other hand, we haven't played tennis for a long time.

Martha: Oh, come on! () Either is fine with me.

- ① Change your mind. ② Make up your mind.
③ Mind your manners. ④ Open your mind.

正解：②

直前の **come on!**「さあ（早く）」を「来なさい」という意味しか覚えていなければ、誤読に繋がる可能性がある。また、正解となる②で用いられている **make up one's mind**「決心する」を知らなければ、この選択肢を選べない。頻出する会話表現を覚え、語彙力も身に付けておきたい。

第3問 B は、パラグラフのまとまりをよくするために、取り除くべき文を指摘させる不要文選択問題である。2014 年度から出題されるようになった比較的新しい問題形式である。東京大学で類似の問題が過去に出題されていることから、2014 年度からセンター試験の作問関係者に、東京大学の先生が加わったか、あるいは東京大学の問題を参考にしたか（意図していないにせよ、センター試験は **TOEIC** の問題に似た形式を出題する傾向にあり、東京大学の問題を参考に作問されたのであれば珍しい）、どちらかの可能性がある（ちなみに、センター試験で出題されて以来、東京大学では出題されていない）。

(2014 年度東京大学)

次の下線部(1)～(5)には、文法上あるいは文脈上、取り除かなければならない語が一語ずつある。解答用紙の所定欄に、該当する語とその直後の一語、合わせて二語をその順に記せ。文の最後の語を取り除かなければならない場合は、該当する語と×(バツ)を記せ。カンマやピリオドは語に含めない。

(1) Of all the institutions that have come down to us from the past none is in the present day so damaged and unstable as the family has. (2) Affection of parents for children and of children for parents is capable of being one of the greatest sources of happiness, but in fact at the present day the

relations of parents and children are that, in nine cases out of ten, a source of unhappiness to both parties. (3)This failure of the family to provide the fundamental satisfaction for which in principle it is capable of yielding is one of the most deeply rooted causes of the discontent which is widespread in our age.

For my own part, speaking personally, I have found the happiness of parenthood greater than any other that I have experienced. (4) I believe that when circumstances lead men or women to go without this happiness, a very deep need for remains unfulfilled, and that this produces dissatisfaction and anxiety the cause of which may remain quite unknown.

It is true that some parents feel little or no parental affection, and it is also true that some parents are capable of feeling an affection for children not their own almost as strong as that which they feel for their own. (5)Nevertheless, the broad fact remains that parental affection is a special kind of feeling which the normal human being experiences towards his or her own children but not towards any of other human being.

正解：(1) has × (2) that in (3) for which (4) for remains (5) of other

センター試験では、東京大学の特徴ある問題形式をそのまま借用することを避け、不要文選択問題となっている。センター試験の問題は、文と文の流れに注目させ、論理の一貫性を問うことから、一見すると難しいように感じられるが、それほど難易度は高くない。まずは段落の主題をつかめば良い。そのためには段落のはじめに注目することである。ちなみに、主題は段落のはじめに示されることが多い（なぜなら、主題を理解した上で読み進めていく方が、読者にとって読みやすいため）。次に、情報構造に着目しながら読むことである。そうすれば、前後の内容に合わない不要文は見つけられる。なお、情報構造とは、旧情報→新情報（名詞が次の文から代名詞になることも含む）、抽象→具体といった情報の流れのことであり、英文を読む際、論理展開を把握する上で重要なものである。これらの解法を用いて、実際の問題を解いてみることにする。

(2016 年度追試)

People can show courage in dangerous situations. For example, someone pulling an injured person out of a crashed car after an accident is considered brave. However, people do not need to be in dangerous situations to show courage; they can do it in any type of situation. I will give you the example of my friend Sophie. ①Even though she was afraid of flying, she boarded a plane for the first time to see her parents. ②She knew that her parents had never flown even though they were not afraid of flying. ③Her fear was based on her belief that such a big and heavy machine should not be able to fly in the air. ④Before getting on the plane, she was shaking with fear, but she overcame that feeling. I think that Sophie getting on the plane was as courageous as someone taking a risk to help at the scene of a traffic accident.

正解：②

上記の問題は、最初の文で導入がなされ、However の後で、主題が「人々が必ずしも危険な状況の中

でだけ勇気を示すわけではない場合」であることがわかる（主題の発見）。下線部①の直前の文では、友人である Sophie の例を挙げると述べている（抽象→具体）。よって、下線部①からは、その友人 Sophie に関する内容であると推測できる。下線部①では飛行機に乗ることは怖いけど、両親に会いに行くために初めて飛行機に乗ったことが述べられている。しかし下線部②を読むと、「両親は飛行機に乗ることは怖くないと思っているが一度も乗ったことがなかった」と、急に Sophie の両親の話に変わっていることに気付き、Sophie に関する内容ではなく、論点がズレていることから、②が不要文であると推測できる。不要文と思われる文を見つけた際、その文を除いて前後が繋がるかどうかの確認をする。②の英文を取り除いた場合、③は Her fear で始まり、①の文（Even though she was afraid of flying）と内容が重なっていることがわかり（旧情報）、her belief that such a big and heavy machine should not be able to fly in the air.（新情報）へと続いていることから、まとまりのある文になる事が確認できる（旧情報→新情報）。このように、まずは主題をつかみ、情報構造に着目しながら読むと、文章の流れを止める不要文に気付くことができる。この問題が次年度においても出題されれば 4 回目となり、受験生が十分に対策をして挑めることから、これまでになかった形式、例えば最初の文、あるいは最後の文に下線を引いて難易度を上げてくる可能性もあるので注意したい。不要文選択問題を苦手とする生徒は、対策の手始めとして、1992 年度～2006 年度までの第 3 問 B で出題された文整序問題を解くことから始めるのも 1 つであろう。文整序問題は、情報構造に着目しながら論理展開を理解するための基礎力を身に付けるのに適している。

第 3 問 C は、意見要約問題である（2013 年度までは第 3 問 B で出題されていた）。2007 年度から出題された形式であり、議論の中で出てきた意見を別の言い方でまとめさせるものである。これまで出題された議論のテーマを以下に示す。

『センターTen』（ジェイシー教育研究所）のデータを参考に作成

年 度	テーマ	年 度	テーマ
2007年度本試	テレビゲームの影響	2012年度本試	テレビの子どもへの影響
2007年度追試	体育の授業時間数	2012年度追試	校舎の建て替えについて
2008年度本試	制服規定への3人の生徒の意見	2013年度本試	空き地をどんな公園にするか
2008年度追試	携帯電子機器の功罪	2013年度追試	修学旅行の旅程
2009年度本試	友情における量と質	2014年度本試	アメリカの高校で教えるべき外国語は？
2009年度追試	学校でのインターネットの利用規制について	2014年度追試	自転車事故を減らす方策
2010年度本試	高齢者に対する特別な言動の是非	2015年度本試	迷信とは
2010年度追試	趣味とは何か	2015年度追試	リーダーシップ
2011年度本試	役者の性格と演技上の役の関係について	2016年度本試	異文化理解
2011年度追試	大学在学中における一人暮らしの是非	2016年度追試	ジャーナリズム

身近なテーマが取り上げられることが多いことから、これらのテーマに普段から関心をよせて物事を考えている受験生にとっては取り組みやすい問題と言える。問題の解法としては、第 3 問 C は日本語の指示文に、英文の内容に関するテーマが示されていることから、まずは指示文を読み、テーマが何であるのかを把握したい。次に、意見要約の問題であることから、話し手の主張が書かれている箇所を見つけない。話し手の主張は、話し手の主観的判断を表す形容詞（important や necessary など）や逆接(but や however)の後、主張を表す際に用いられる think や believe といった（思考）動詞、should, must といった助動詞が含まれていることが多いので、これらの単語が出てきた際には線を引いておくと、話し手の主張が書かれている箇所を識別しやすくなる。なお、英語のパラグラフは、以下の構造になる事

が多いので、参考にすると良い（どこに何を書いてある、その目安になることがある）。

BODY PARAGRAPH（一般的に言われているパラグラフ・段落）

①TOPIC SENTENCES（主題文）：最初は、そのパラグラフで述べようとする主題が書かれている

②SUPPORTING IDEA（支持文）：次に話し手の考えを支持するための理由付けや立証が行われる

③DETAILS / EXAMPLES（具体例）：主張を支持するための詳細な例（具体例）が示される

④CONCLUSION（結論）：主張内容の中で重要なことを再度述べ、結論へと結びつけられる

このように、話し手の主張は冒頭と末尾に来る傾向がある事から、特にその 2 箇所に注意を払い、論理展開を整理しながら読みたい。言い換え(that means など)や例示(for example など), 追加(also など), 逆接(on the other hand など), 因果(therefore など)のようなディスコース・マーカー（談話標識）を意識しながら読むと、論理の展開を整理することができる。なお、「例示」の前, 「逆接」や「因果」の後ろには、重要な情報が置かれることが多いので、これらを表すディスコース・マーカーには特に注意したい。一部抜粋した問題を解きながら解法を確認する。

(2014 年度本試)

次の会話は、アメリカのある高校でカリキュラムを見直すにあたり、教師たちが外国語教育について議論している場面の一部である。()に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Ted: For the past 20 years our school has been offering French and Spanish. However, times have changed and perhaps we should reevaluate the needs of our students. I've heard some suggest that native English speakers don't need to study a foreign language because English has become a global language. I'd like to get your views on this.

Jennifer: Well, with the globalization of many businesses, knowing a foreign language has become increasingly useful in the workplace. In business situations, when you're negotiating with people from other countries, it's obviously a disadvantage if they know your language but you don't know theirs. Also, by studying a foreign language, students can learn about various customs and cultural values of people from different parts of the world. This can smooth business relationships.

Ted: So, Jennifer, I guess you're saying that ().

- ① English is the most common language in the business world
- ② it's a disadvantage to use a foreign language in business
- ③ knowing a foreign language can have a practical, career-related benefit
- ④ studying business skills contributes to foreign language learning

正解：③

日本語の指示文から、議論のテーマが「外国語教育におけるカリキュラムの見直し」であることがわ

かる（指示文を読みテーマを把握）。議論は、英語母語話者が外国語を学ぶ必要はないという人もいることについて、Ted が Jennifer に意見を求めることから始まる。Jennifer の発言の冒頭は、Well, with the globalization of many businesses, knowing a foreign language has become increasingly useful in the workplace.で始まっており（主題文）、後続の文に逆接がないこと、プラスの判断を表す形容詞 useful を用いていることから、Jennifer は“外国語を知っていると、役に立つことが多くなってきていることから重要である”と考えていることが推測できる（話し手の主張）。選択肢を見ていくと、主題が「外国語」であるにもかかわらず、「英語」になっているもの(①)や「ビジネスの技術」になっているもの(④)があり、論点がズレているので消去できる。選択肢②は、マイナスを意味する disadvantage が用いられており、話し手の主張とは反対であることから、正解は残った選択肢の③であることがわかる。このように、意見要約問題を解くためには、議論全体の流れや展開を正確に追っていきながら、話し手の主張を捉えることが必要となる。なお、正解の選択肢に含まれる a practical, career-related benefit は、支持文(SUPPORTING IDEA)と具体例(DETAILS / EXAMPLES)が述べられている In business situations から relationships までをまとめた表現である。選択肢は、本文では使われなかった英語で本文の内容を言い換えることが多いのがセンター試験の特徴であることも付け加えておく（本文で用いられた英語が選択肢で多く見られると、正解のように錯覚する場合もあるので気を付けたい）。

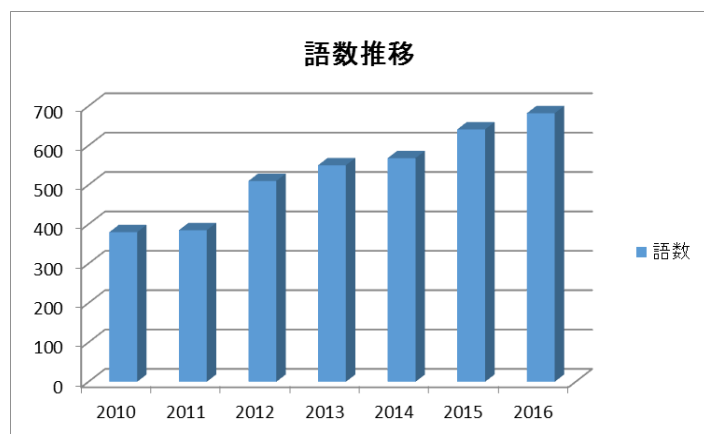
第4問

第4問は図表問題である。図表を見ながら、必要な情報を英文の中から早く、正確に読み取らせる問題が主であるため、情報処理能力が求められる。2007年度からは、A（図・グラフなどに関する問題）とB（広告問題）に分かれて出題されるようになった。

第4問Aは、センター試験が実施されてから2016年度まで、継続して出題されている図表（図・グラフ）問題である。本文を読み取り、図・グラフの空所に適するものを入れさせる問題や内容一致の問題が出題されるほか、2014年度からは本文の主旨を答えさせる問題、最終段落に続くものを選ぶ問題が出題されるようになり、新しい傾向も見られる。第4問Aは、語数が2010年度からは連続して増加傾向にあるので注意したい（5年前と比べても約300語増加している）。

『Kei-Net』（河合塾）のデータを参考に作成

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
語数	380	385	510	550	568	641	682



次に示すのは、1990 年から 2016 年度までに出現された図表の種類とテーマである。

『センターTen』（ジェイシー教育研究所）のデータを参考に作成

年度	棒グラフ	表	折れ線グラフ	円グラフ	棒グラフ	地図	積み上げグラフ	レーダーチャート
1990本						ジャクソン市の案内		
1990道	家計支出の年次変化							
1991本			5カ国の失業率の年次変化					
1991道						ニューポート町の案内		
1992本		利用しているニュースソースの変遷						
1992道					輸出入の10年間の変化			
1993本		4カ国の食料自給率比較						
1993道	日本の家庭の食費							
1994本		担任教師の印象						
1994道		5カ国の親が子を大切に思う理由比較						
1995本			図書館司書の本選定の年次変化					
1995道		3カ国の価値観と文化						
1996本						劇場の座席位置		
1996道		登山者が関心を示すものの調査結果					4カ国の余暇活動の比較	
1997本	古紙回収の実験結果	イメージすることと状況理解						
1997道								
1998本	周度を表す言葉を数値で表わすと							
1998道	記号の認識率調査の結果	交通機関利用の変化			子供の問題解決力の調査			
1999本			輸入果物の消費量推移					
1999道					世代による髪型の流行の変化			
2000本								
2000道								
2001本								
2001道								5都市の暮らしやすさの調査
2002本					5都市の摂取カロリーの比較			
2002道	食の養分法の研究							
2003本					偏極とストレスの関係の調査結果			
2003道					4都市の通勤手段の比較調査			
2004本	5カ国の労働と休暇の比較		5カ国の労働と休暇の比較					
2004道			エネルギー資源の変遷					
2005本	6カ国の海外旅行の収支比較		6カ国のXOA輸出の比較					
2005道	6カ国のXOA輸出の比較							
2006本	日本のボランティア活動事情							
2006道	アメリカ人の余暇の過ごし方							
2007本		健康維持と適切な運動						
2007道		人工衛星						
2008本								
2008道	留学プログラムの評価							
2009本			熱帯雨林の保護					
2009道			日本のコンビニの現状					
2010本	多様化する来日外国人の目的地							
2010道	海外で暮らす日本人							
2011本	価値多元社会におけるコミュニケーターの条件							
2011道		生涯学習活動支援施設に関するデータ						
2012本			水分含量による木材の伸縮					
2012道	学生の留學生の占有率							
2013本		世界各国の医療の現状と対策						
2013道	太陽系の惑星の平均表面温度							
2014本	アメリカにおける州間移住に関する研究		イギリスにおける人々の移動調査					
2014道								
2015本	SNS利用の危険性に関する調査結果							
2015道		8000メートル級の登頂に成功した登山家						
2016本			米国のオレンジの輸入量と生産量				米国のオレンジの輸入と生産量	
2016道		米国における通勤方法の違い						
計	19	14	12	3	3	3	2	1

過去に出現された図表の大半が、棒グラフ、表、折れ線グラフ、であることが特徴としてわかる。上記の図表からデータを読み取ることに、日頃から慣れておきたい。また、研究・調査に関する英文は、「目的」、「方法」、「結果」などが示されることから、experiment / survey / investigation「実験、調査」や be carried out / conducted / performed「行われる」など、図表問題で頻出する特有の表現も確認したい。

第4問Aの問題の特徴としてほかに、設問の答えの根拠が、設問の順に本文中に出てくるとは限らないこと（本文を読みながら、問1、問2、問3の順に答えられるとは限らず、例えば2014年度では、問3、問1、問2の順に本文において、答えの根拠が述べてあった問題が存在するという意味）、解答の根拠となる箇所が分散している場合があること、が挙げられる。他の読解問題と同じように、設問に先に目を通すことはもちろんのことであるが、本文を読む際には、特に英文が図・グラフに関する内容であ

ることから、英文やデータから情報を正確に収集するために、適宜メモを取りながら読み進めていくことが必要不可欠である。設問は、本文のみで解答できるもの、図表だけで解答できるもの、両方の情報が必要なもの、があるので、それぞれのパターンをつかんで識別できるようにしておくが良い。

ここでは、2014 年度から出題された、最終段落に続くものを選ばせる問題に触れたい。初出の 2014 年度の正解率は 19.9%と低かったが、次年度以降、2015 年度、2016 年度は、それぞれ 70.5%, 70.7% (『大学入試センター試験徹底分析』(Benesse)による) と、安定した正解率であった。ここで不正解になると、他の受験生と差がついてしまう問題と言えるので、確実に得点したい。2014 年度の本試と追試は、初出ということもあり、正解率は低かったが、実は解法テクニックで、正解にたどりつけた問題である。

(2014 年度本試)

The study went on to explore the reasons why “movers” leave their home states and “stayers” remain. As for movers, there is no single factor that influences their decisions to move to other states. The most common reason they gave for moving is to seek job or business opportunities. Others report moving for personal reasons: family ties, the desire to live in a good community for their children, or retirement.

What topic might follow the last paragraph?

- ① Reasons why some Americans stay in their home states.
- ② States that attract immigrants from other countries.
- ③ Types of occupations movers look for in other states.
- ④ Ways to raise children in a magnet state community.

正解：①

上記は一部抜粋した問題である。主題文が書かれることが多い 1 行目に着目すると、研究では movers 「移住者」と stayers 「残留者」の理由を探ったとある。この主題文から、後続にはそれぞれの理由が述べられると予想できるが、主題文以降、stayers の理由に関する記述がないことがわかる。よって、最終段落に続くものとして、まだ記述されていない stayers の理由が来ると予想でき、stayers に関する記述が唯一なされている選択肢①が正解となる。この手の問題には、解法テクニックが存在する。主題文において、順接 and を用いて A and B と並んでいた際、B に着目する。その B の箇所が本文に記述されていなかった場合、B に関する内容が後続すると予測し、解答するテクニックである。ただ、2015 年度以降、出題形式の変更はないものの、解法の傾向が変わっていることから、注意しなければならない。センター試験も、一筋縄では解けない問題へと難易度を上げていっていると考えられる。

(2016 年度追試)

As more cities invest in making walking and bicycling easier, the popularity of non-motorized travel should also increase. Still, the 2012 study also identified several social and financial factors that will need to be overcome before higher rates of use for these transportation methods can be achieved.

What topic is most likely to follow the last paragraph?

- ① Challenges facing non-motorized transportation use
- ② Financial issues limiting motorized transportation use
- ③ Rates of use for non-motorized transportation
- ④ Strategies to promote motorized transportation use

正解：①

段落の冒頭には、徒歩や自転車での移動を容易にするために、支出する市が増えるにつれ、移動に自動車以外を活用する率が上がることが述べられている。本文の内容に照らし合わせた場合、この冒頭の文はプラスの内容であるが、次の文は、逆接の **Still** で始まっていることから、マイナスの要素を含んだ内容に転じられることに注意したい（逆接の後ろには重要な情報が置かれることが多いことも思い出したい）。ちなみに、逆接(Still)から後ろの文では、自動車以外の移動手段の割合を高くするには、克服すべき社会的・財務的要因があることを 2012 年の研究が明らかにしたことが述べられている。よって、最終段落に続く内容は、自動車以外の移動手段の割合を高くすることに伴う課題が述べられることが予想され、正解は①となる。なお、このような問題であっても、読解の基本である、“逆接の後ろの文や話し手の主観を反映させる助動詞が含まれている文は、重要な文になる”ということさえ意識していれば、決して難しくない。また、日頃から、どのような内容が次の英文で述べられるかを予測しながら読む習慣を身に付けておくと、この種の問題に対応できる力が養える。そのためには、ディスコース・マーカーに着目し、長い英文の内容を頭の中で整理し、論理の流れをつかみながら読むことに心がけたい。その際、英文の内容に関して、**why?**（なぜそのようなことが言えるの?）とツツコミを入れながら読み進めていく方法もおススメしたい。英文の構成の特徴（論理の流れ）がわかり、批判的思考力も養える。

第 4 問 B は、広告や文書を読み取らせる問題である。2007 年度から出題されており、必要な情報を早く探し出す力、つまり情報を素早く検索する力が試される問題となっている。なお、これまで第 4 問 B に出題された内容のテーマを以下に示す。

『センターTen』（ジェイシー教育研究所）のデータを参考に作成

年度	トピック	年度	トピック
2007本	屋久島エコツアーの広告	2012本	ポップグループのコンサート
2007追	趣味・関心事に関する案内広告	2012追	寄付募集の案内
2008本	英語サマーキャンプの広告	2013本	写真スタジオの広告
2008追	自作ロボットの広告とクレーム	2013追	レストランの開店案内
2009本	病院の問診票	2014本	マラソン大会の参加要項
2009追	レシピ紹介サイト	2014追	レジャー用品の貸出案内
2010本	フライト・スケジュール	2015本	キャンプ場案内
2010追	犬のしつけ教室	2015追	ルームシェアー募集
2011本	SWIP新聞	2016本	美術館に関するウェブサイト
2011追	オンライン書店の注文ガイド	2016追	大学のスポーツ施設使用の案内

第 4 問 B は、他の読解問題と大きく異なり、英文よりも先に設問が提示される。これは、設問を先に読んでから取り組みなさい、というセンター試験の作問者からのメッセージである（TOEIC にも類似問題はあがあるが、設問は後に提示される）。早速、問題を見ていくことにする。

(2015 年度本試)

次のキャンプ場に関するウェブサイトを読み、次の問いに入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1 A man who likes water activities is looking at the website. Which are the campgrounds he is most likely to be interested in?

- ① Apricot and Maple Campgrounds ② Maple and Orange Campgrounds
③ Orange and Stonehill Campgrounds ④ Stonehill and Apricot Campgrounds

問 2 Two people are making plans to stay in Green National Park for nine nights. They want to enjoy nature, but they need a power supply to use their computers. How much will they have to pay per night for the site they are likely to choose?

- ① \$20 ② \$24 ③ \$32 ④ \$96

問 3 A family of four is planning a four-day camping trip with their dog. Their budget for a camp site is under 100 dollars for three nights. Their main interests for the trip are barbecuing and bicycle riding in the national park. Which campground is this family most likely to choose?

- ① Apricot ② Maple ③ Orange ④ Stonehill



The campgrounds in Green National Park are open from April 1 to November 30.

Apricot Campground

Walking trails from this campground lead you to the top of Green Mountain. Enjoy the fantastic view from the top. You can also enjoy cycling on the bike trails in the woods.

Maple Campground

Maple Campground has direct access to Green River. Have fun doing such activities as fishing, boating, and swimming. You can also enjoy a campfire by the river.

Orange Campground

This campground is on Orange Lake, and offers a comfortable outdoor experience. Water skiing is popular on the lake. Other activities include fishing, swimming, and bird-watching.

Stonehill Campground

A pine tree forest surrounds Stonehill Campground. The giant pine trees are impressive. You can see a lot of wild animals while riding a bicycle or hiking through the forest.



Campground Information

Camp-ground	Site Type (available spaces)	Site Rate/night	Max. People	Max. Stay	Facilities	Restrictions
Apricot	Tents (15)	\$20	4	15 nights	BG	—
Maple	Tents (20)	\$24	5	12 nights	BG PG	—
Orange	Deluxe Cabins (5)	\$96	7	7 nights	K E HS	No pets
Stonehill	Standard Cabins (10)	\$32	6	14 nights	E HS	No fireworks

Site Rate=Rate per site (up to the maximum number of people); Max.=Maximum

K Kitchen, E Electricity, BG Barbecue Grill, HS Hot Shower,

PG Playground

正解：問1② 問2③ 問3①

他の読解問題においても、問に目を通すことは当然だが、特に第4問Bは情報検索能力が求められる点、①必要な情報は何か、②その情報はどこにあるのか、を素早く探し出すことが重要となる。ここでは解答時間を短縮できるSKIM（重要な情報を拾い読みする）とSCAN（重要な情報を探し読みする）を駆使しながら読み解く方法を紹介したい。

日本語の指示文から、資料が「キャンプ場のウェブサイト」であることがわかる。次に英文の太字の見出しGreen National Park Campground Guideを見て確認する。何に関する資料なのかを把握する（背景を知る）ことは、英文読解をする上では重要である。

問1に目を通すと、「ウォーター・アクティビティが好きそうな人が選ぶキャンプ場はどれか」という問題であることがわかる。ここでSKIMをする。設問の英文では、基本、名詞と動詞、数字をSKIMする。特に設問の英文で用いられる名詞は、本文でその名詞が用いられないということではなく（問自体が成立しなくなるため）、本文でその名詞が用いられている箇所が答えの根拠となるので重要である。一方、動詞は設問の英文で用いられたものが必ず本文で同じ形で出てくるとは限らないので（例えば、問ではlikeを用い、本文では、ほぼ同じ意味を表すbe fond ofを用いる場合など）注意したい。情報を一目で識別できるよう、名詞には1本線、動詞には波線を引くと良い。問1の設問をSKIMすると、名詞のwater activitiesとthe campgroundsがキーワードとなる。資料に目を移し、キーワード検索をする。すると、キーワードを含んだ名詞Apricot Campground, Maple Campground, Orange Campground, Stonehill Campgroundが目に入る。ここに答えの根拠があると見当が付く。次に、設問の文にあった“water activitiesが好きな人である”という情報を手掛かりに、本文の該当箇所である（Apricot Campground, Maple Campground, Orange Campground, Stonehill Campground）のSCANを始める（SCANはSKIMの過程で得たキーワードを手掛かりに行われるため、解法の手順はSKIM→SCANとなる）。すると、Maple CampgroundとOrange Campgroundの説明文に、fishing, boating, swimming, water skiingといった、キーワードwater activitiesに関するものが含まれていることがわかり、正解は②となる。

問2の設問をSKIMすると、数字のnine nights（宿泊数）、名詞のnature（楽しみたいもの）、power supply（必要なもの）がキーワードとなり、金額（一晩あたり）を答えさせる問題であることがわかる。資料に目を移し、金額が示されている該当箇所（Campground Information）のSCANを始める。電気のあるキャンプ場を表すEの印が付いているのは、OrangeとStonehillのみで、その中でも、キーワードのnine nights「9泊」の条件に当てはまるのは、Max. Stay「最大宿泊数」の欄に14 nightsと記載されているStonehillのみである。Stonehillの金額欄には\$32とあることから、正解は③となる。

問3の設問をSKIMすると、数字のfour（家族の人数）、four-day（旅行の日数）、100 dollars for three nights（予算）、名詞のdog（同伴のペット）、barbecuing and bicycle riding（興味）がキーワードとなり、この家族が選びそうなキャンプ場を答えさせる問題であることがわかる。SKIMで得たキーワードを頭に入れ、該当箇所（Campground Information）のSCANをする。バーベキューができる施設を表すBGの印が付いているのは、ApricotとMapleであることから、OrangeとStonehillが消去できる。最大収容数、最大宿泊数、予算、ペットの同伴においては、2つのキャンプ場（ApricotとMaple）が条件を満たしていることがわかり、残ったbicycle ridingができるキャンプ場という条件を満たしているかがポイントになる。Campground Informationには、キーワードbicycle ridingに関する記載がないこと

から、Apricot Campground、Maple Campgroundの案内説明に目を移す。bicycle riding というキーワードを手掛かりに、それぞれの案内説明の中を SCAN (キーワード検索) する。Apricot Campgroundの案内説明に cycling on the bike という表現があり、Maple Campgroundの案内説明には、それに該当する表現がないことから、正解は①となる。

このように、第 4 問 B を短時間で解答するためには、全ての文を熟読するのではなく、SKIM と SCAN を駆使しながらメリハリを付け、どこに何が書いてあるのか、全体を見る目 (マクロ的視点) と、キーワードを手掛かりに、細部を見る目 (ミクロ的視点)、両方の目を持つことが必要である。なお、内容一致・内容不一致問題が出題されることもあり、年度によっては、3 問中 2 問を内容一致・内容不一致問題で占められることもある。特に本文の内容に合わないものを選ばせる内容不一致問題は正解率が低い傾向にある (例えば 2014 年度本試は 33.6%) ので注意したい。

第 5 問

第 5 問は物語文の長文読解問題である。2007 年度まで出題されていた物語文問題は、2008 年度からはヴィジュアル問題へと、2015 年度本試はメール・手紙文問題へと変わった経緯がある。2015 年度の追試から物語文問題が復活し、2016 年度 (本試・追試) も継続して出題されていることから、今後も引き続き出題される可能性が高い。なお、第 5 問は、特に受験生の学力層によって差が付きやすい傾向にある。場面描写をしっかりと捉え、読者の主観的な思い込み (時に妄想!?) によって誤読しないよう、本文に書かれている事実のみを基に、客観的かつ正確に読み解くことが重要となる。第 5 問以降の長文読解問題は、たった 1 問 (各 6 点) で第 1 問から第 2 問 A (各 2 点) までの 3 問分に相当するので、1 問 1 問を大切に得点していきたい。ちなみに、2014 年度まで第 3 問 A で出題されていた意味類推問題は、2015 年度では第 5 問、第 6 問で、2016 年度本試では第 6 問で出題された。特に 2016 年度本試では、語彙ではなく、文の意味を類推させる問題が出題され、多少の変化が見られたが、2016 年度追試は従来に似た、語彙を類推させる問題が第 5 問の物語文で出題されている。

第 5 問の攻略方法としては、第 4 問に引き続き、ミクロ的視点とマクロ的視点を用いた読解が有効となる。5W1H に着目し、物語の展開の詳細を把握するミクロ的視点と、全体を通して描かれる、登場人物の心情変化を捉えるマクロ的視点を駆使しながら読み進めたい。手順として、まずは設問に目を通し、英文の名詞 (主語にならないものなども含め) と動詞 (本文では別の表現で言い換えられている可能性があることを念頭に) を SKIM し、問われている内容を把握する。次に本文へと移り、それらに該当する箇所 (答えの根拠) が本文に出てきたら、それを SCAN して問題を解く。なお、物語文は長文であるため、本文全てを読み終えた後に問題を解くと、どこに何が書いてあったのかわからなくなり、内容の詳細も忘れてしまう (記憶が曖昧になる) ことがあるので、本文を読みながら問題を解くようにしたい。こうすることによって、答えの根拠を探すために本文を何度も読み返す必要がなくなり、また、該当箇所を読んだ直後に問題を解くことで、より正確に内容を把握した状態で問題に取り組むことができる。設問に対する答えの根拠は、設問の順に本文中に出てくることがセンター試験では多いので、上記の読解法がさらに生かされる。なお、時間が余った際、見直しがすぐにできるよう、答えの根拠とした箇所には下線などを引き、設問番号も記しておくといい。それでは、2016 年度追試の問題 (一部抜粋) を用いながら解法を確認していきたい。

次の物語を読み、下の問いに入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Tomorrow would be the last day of my dream trip. In the spring, I had started on a 3,500-kilometer hike. Now, as the leaves were changing color and with 10 kilometers left, I was about to fulfill my dream of hiking the Rainbow Trail.

While I relaxed by my campfire, various thoughts went through my mind. I laughed softly at myself as I remembered the first tiring day. When I started out that day, it did not take me long to realize how foolish I was; I had packed too much. I was carrying almost 30 kilograms, and it was killing me. At my first stop, I took out a lot of canned goods, books, and other heavy things. From then on, with my load lighter, I was able to make good time.

I had decided to do this long hike after quitting my job in the city. I really liked my job, but I had been working 80 hours a week and traveling a lot on business. It seemed I was only working, and there was no other meaning to my life. Finally, it all had become too much. I decided to take some extended time off.

問 1 The author laughed when he remembered the first day because he .

- ① felt it was the happiest day for him
- ② had known very little about hiking
- ③ had met many interesting people
- ④ spent that day in front of the fire

問 2 The author decided to take a long hike because he .

- ① could stop at small towns along the way
- ② lost his well-paid job in the city
- ③ wanted to stop and think about his life
- ④ dedicated to spending time in nature

正解：問 1 ② 問 2 ③

問 1 は、初日を思い出した時に筆者が笑った理由が問われていることがわかる。設問を **SKIM** した際に得たキーワード、動詞 **laughed** や **remembered**、名詞の **the first day** を手掛かりに読んでいくと（キーワード検索）、それらのキーワードが 2 段落目の 1 行目から 2 行目に出てくことに気付く。よって、この先の文を **SCAN** すれば答えの根拠にたどり着けると予測する。なお、直後の主節 **it did not take me long to realize how foolish I was** 「自分がどれほど愚かであったかに気付くにはそれほど時間がかからなかった」を読んだ時点で、筆者が笑った理由がわからなくても心配する必要はない。評論文と同様、物語文も抽象から具体へと展開されることが多いからである。つまり、読んでいて？（疑問）に思った後、！（謎の解明）が続くということである（物語文においても、「なぜ？」とツッコミを入れながら読むと良

い)。あえて先に、抽象的な内容を提示することによって、読者に推測（時に推理）させ、興味付けさせた後に具体化する，“伏線”（Foreshadowing）という手法の一種でもある（ちなみに、文学用語で言う“伏線”とは、ある表現を予め提示しておいて、後にそれが理解できるようにする手法のこと）。よって、後続の文がさらに具体化する可能性があるとして予測し、読み進めると良い。すると、後ろにセミコロン（;）があることに気付く（セミコロンは、具体化を示すディスコース・マーカーである）。読み続けていくと、“たくさん荷造りし過ぎて（およそ 30kg も運んでいた）、死にそうだった”こと、その後、“重いものは取り除き、軽くしたことによって早く着いた”ことが述べられている。初日の非効率的な行為（荷物の詰め過ぎ）から、著者はハイキングに不慣れであったことがわかり、その非効率的な行為は、ハイキングに関する知識のなさに起因すると考えられることから、正解は②となる。

問 2 は、長いハイキングに著者が出かける決心をした理由が問われていることがわかる。設問を SKIM した際に得たキーワード、動詞 **decided** と名詞 **long hike** を手掛かりに読んでいくと（キーワード検索）、それらのキーワードが 3 段落の冒頭に出てくことに気付く。よって、この先の文を SCAN すれば設問 2 の答えの根拠にたどり着けると予測する。続けて読み進めていくと、都会での仕事を辞めてハイキングに出かけていることがわかる。さらに後ろを読み続けると、都会での仕事は好きだったが、1 週間に 80 時間も働いていたことなど、多大なる負担の下、自分は働いているだけのようになり、自分の人生にとって意味が他になかったと述べられている。ここから、長いハイキングに著者が出かける決心をした理由は、仕事で多忙な日常生活を送る中で、人生の意味が見い出せずにいたため、仕事を辞め、長い休みを取って、自分の人生について立ち止まって考えてみたかったためと判断ができ、正解は③となる。

このように、SKIM と SCAN を駆使すれば、読みながら、速く、しかも正確に、設問を順番に解くことができる。何度も本文に戻りながら問題を解くことで、時間を浪費することがないようにしたい。なお、いくら長文問題をたくさん解いても、確立した方法ではなく、“文脈”と言う名の自分の“勘”を頼りに解いては、いつまでたっても読解力は伸びず、長文の正解率も安定しない。質の良い勉強法で、多くの英文の量に触れる、つまり、質と量のバランスを保つことが、効率よく読解力を身に付けられる秘訣である。

第 6 問

第 6 問は論説文の長文読解問題である。A の内容一致問題と B の段落要旨問題（B の問題は完答形式）に分かれている。2014 年度まで第 3 問 A で出題されていた語彙の意味類推問題が、2015 年度本試では、第 5 問と第 6 問の長文の中で出題されるようになった（追試では第 6 問のみ）。2016 年度本試では、語彙の意味類推問題が、発言の意図を把握する力を求める、文の意味類推問題へと変わり（ただし、2016 年度追試では、2015 年度本試と同様、5 問と第 6 問の設問の中に語彙の意味類推問題が出題されている）、第 6 問で出題されている。ちなみに、第 6 問は、2007 年度まで出題されていた物語文から 2008 年度より論説文へと変わったという経緯がある。段落要旨問題に関しては、2011 年度は段落の要旨を並べ替えさせるものであったが、2012 年度から段落の要旨を選択させる問題になっている。なお、2015 年度では、段落要旨のタイトルが示されていたが、2016 年度の本試と追試では示されておらず、段落のタイトルを問う問題が設けられていた。このように、大小の変更が行われてきたというのが、これまでの第 6 問の特徴とも言える。どのような形式に変わろうと、対応できる力を身に付けておくことが必要である。それでは 2016 年度追試（一部抜粋・改変）の問題を使って解法を示していきたい。

次の文章を読み、下の問い (A・B) に答えよ。なお、文章の左にある(1)～(3)はパラグラフ (段落) の番号を表している。

- (1) Did you know that reading good novels may improve your ability to handle social and business situations such as job interviews? Recent scientific research has shown that people who read novels are better able to read an interviewer's body language and figure out what they are thinking or feeling. People who read literary works also have greater emotional awareness and superior social skills.
- (2) Researchers have investigated the reasons why reading literature has this impact. They found that in literary fiction more work is left to the imagination. Therefore, the reader has to try harder to understand subtle points and complexities of the characters' thoughts. More effort is required to understand each character's behavior and be sensitive to small hints of emotion. Through reading literature readers learn to empathize with people and view the world from another person's perspective. When observing people, they become more skilled at interpreting gestures and facial expressions.
- (3) One research experiment, called "Reading the Mind in the Eyes," has provided strong evidence that reading novels, even for a few minutes, greatly affects our ability to detect emotion in other people. In this experiment, two groups of participants looked at 36 photographs of pairs of eyes and chose in each case one word from a set of four which, in their judgment, best fitted the emotion shown. Those who had read a novel beforehand scored significantly better than the other group which had not. The results of this experiment were exciting because they suggested a direct connection between reading novels, even for a short time, and the perception of other people's feelings.

A 次の問いに入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1 The word empathize in paragraph (2) is closest in meaning to .

- ① copy a character's behavior ② feel what others are feeling
③ question others' thoughts ④ state your opinion strongly

問 2 What did the experiment described in paragraph (3) show? .

- ① Fiction readers can identify emotions well ② Participants' emotions change over time.
③ The mind can influence how we see. ④ There are limits to reading literature.

B 次の表は、本文のパラグラフ（段落）ごとの内容をまとめたものである。(2)～(3)の に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つずつ選び、表を完成させよ。ただし、同じものを繰り返し選んではいけない。

Paragraph	Content
(1)	Introducing the topic
(2)	<input type="text"/>
(3)	<input type="text"/>

- ① An experiment looking at the effects of reading
- ② How readers must work hard to comprehend fiction
- ③ How the brain treats fictional situations as real
- ④ Taking a fresh look at past brain research

正解：A 問 1② 問 2① B(2)② (3)①

第 6 問が A（内容一致問題）と B（段落要旨問題）に分かれている場合、A を全て解き終えてから B の問題に取り掛かると、再度、本文を読み直す必要があるの、A の問題と B の問題を並行して解くようにしたい。なお、A の内容一致問題は、設問の順番に本文中に答えとなる根拠が出てくることから、第 5 問の解法と同じように、本文を読みながら、設問を順に解いていくことになる（第 6 問 A は、答えの根拠がどの段落にあるのか、明白なので、設問に対応する段落を読む直前に、設問の英文を SKIM して本文へ読み進めればよい。A の全ての設問を SKIM してから本文を読むと、かえって非効率的である）。その際、論理展開を把握しながら読み解けるよう、記号を使って読み進めていく習慣付けをしておきたい。例えば、換言・要約・具体化は＝、並列・追加・列挙は＋、逆接・対比は⇔、因果関係は→、のように記しておくことで展開を整理できる。なお、今回の問題のような調査研究論文では、①調査研究者の主張（仮説）、②調査研究の目的、③調査研究の手法、④調査研究の結果、⑤調査研究結果の考察、の順に展開されることが多い。本文の第 1 段落の冒頭を見てみたい。Did you know that reading good novels may improve your ability to handle social and business situations such as job interviews?とある。読者に対して「優れた小説を読むと、就職面接のような、社会的な仕事の場面に対応できる能力を向上させられる可能性があるということをあなたはご存知でしたか？」と、もちろん聞いているのではない（特に論説文では、疑問文を問題提起として用いることが多いので、その含意を理解したい）。導入文として、“（読者の方はご存じなかったと思うが）実は小説を読むと、そういった適応能力が向上するという効果がある（よって、それをこれから示していきたい）”という、調査研究者の主張である。

では、A 問 1 を解いていきたい。語彙の意味を類推させる問題である。センター試験作問者は、受験生にとって未知の語彙であることを前提に出題しているので、意味がわからないからと言って焦ることはない。裏を返せば、下線部以外の文意から下線部の語彙は類推できるということである。当然、下線部の語彙は、受験生の多くは知らないもので、難しい抽象的な意味を含んでいることが考えられる。抽象的な内容は、後ろで具体的に換言されるのが英文読解の原則である。そこで後ろの文を見てみると、

view the world from another person's perspective「他の人の視点から世界を見る」とある。他者の視点で物事を見るということは、他者の立場になって物事を考えられるということでもあることから、正解は「他者が感じていることを（自分でも）感じる」を意味する②となる。なお、empathize withは「～に共感する」という意味である。語彙の意味類推問題は、正解と思われる選択肢を下線部に代入して必ず文意が通るかどうかを確かめたい。

A 問 1 を解き、2 段落を読み終えた後は、B(2)の問題を解きたい。段落要旨問題であることから、2 段落の重要な内容が述べられている箇所が答えの根拠になる。ここでは、時に有効な消去法を使った解法を紹介したい。選択肢③と④に目をやると、それぞれの選択肢の英文の中に、名詞 brain というキーワードが共通して用いられていることがわかる。しかし、2 段落では脳に関する内容やその説明が一切なかったこと（名詞 brain という単語そのものも、2 段落中では出てこない）から、この 2 つの選択肢は消去できる（着眼点によっては、1 度に 2 つの選択肢を消去できるため、正解の確率を 4 分の 1 から 2 分の 1 へと大幅に上げられる）。選択肢①は、“読書による効果を考察する実験”とあるが、選択肢で用いられている、名詞 experiment「実験」に関する言及は 2 段落にはない（名詞 experiment という単語そのものも、2 段落中では出てこない）。よって、正解は②となる。答えの根拠となる箇所は、本文に目を向けると、因果を表すディスコース・マーカーTherefore の後ろの英文にあると考えられる（「因果」を表すディスコース・マーカーの後ろには、重要な情報が置かれることが多いことを思い出したい）。ここで、正解の選択肢②の英文と、その答えの根拠となる本文の英文を見比べたい。

本 文

the reader has to try harder to understand subtle points and complexities of the characters' thoughts

選択肢

How readers must work hard to comprehend fiction

見かけは異なるが、内容はほぼ同じであることに気付く。このように、正解の選択肢の英文と、答えの根拠となる本文中の英文を比べると、センター試験の作問者が、正解の選択肢を不正解に見せるために、どのように細工を施してくるのかを垣間見ることができる。例えば、本文の英文では、（準）助動詞 has to や動詞 understand が使われていたのが、選択肢の英文では、ほぼ同じ意味を持つ助動詞 must や動詞 comprehend という単語に代えられていることがわかる。また、本文の英文 subtle points and complexities of the characters' thoughts「登場人物が持っている考えの細部や複雑性」といった小説の属性を、選択肢の英文では、fiction「フィクション」という単語で包括的に言い換えている。センター試験の問題が作問者によって、どのように作られているのかを知っていれば、迷った時など、役に立つこともあるであろう。

次に A 問 2 を解いていきたい。設問の英文を SKIM すると、3 段落で述べられた実験に関する内容一致問題であることがわかる。主題文が置かれることの多い冒頭（3 段落）を読んでもみると、Reading the Mind in the Eyes と呼ばれる研究実験によって、たとえ数分でも小説を読めば、他人の感情を感知する能力に大きな影響があるという、有力な根拠が示されたことが述べられている。ここで選択肢を見てみると、「フィクションを読む人は、感情を上手く読み取れる」を意味する選択肢①と、3 段落の冒頭の内容が同じであることに気付く。よって、正解は①。本文では reading novels, detect emotion in other

people, 選択肢の英文では Fiction readers, identify emotions のように、多くの表現が換言されていることに注意したい。答えの根拠となる本文の英文と、正解となる選択肢の英文を見比べて、再度、どのようにセンター試験が細工を施して、正解を不正解のように見せかけてくるのか、その言い換えのパターンをつかむために確認をすると良い（下記の英文を使って、同じ内容を言い換えた表現に下線を引いて確認したい）。

本 文

One research experiment, called “Reading the Mind in the Eyes,” has provided strong evidence that reading novels, even for a few minutes, greatly affects our ability to detect emotion in other people.

選択肢

Fiction readers can identify emotions well.

A 問 2 を解き、3 段落を読み終えた後は、B(3)の問題に移りたい。なお、B(3)のように、A 問題と同じ段落に関するものであれば、A 問題の正解の選択肢を参考に段落要旨問題 B を考えると良い。

段落要旨問題であることから、3 段落の重要な内容が述べられている箇所が答えの根拠になる。(2)と同様、brain「脳」というキーワードを手掛かりに 3 段落の本文を SCAN しても、キーワードの検出はなく、また、脳に関する内容やその説明に相当する英文がないことから、③と④の選択肢は消去でき、自動的に正解は①となる。①の選択肢の英文の中には、名詞 experiment が使われており、3 段落においてもこの名詞が出てくることに気付く。なお、3 段落は、最後の文でもう一度、冒頭で示された調査結果を述べていることにも気付きたい。

最初の文

One research experiment, called “Reading the Mind in the Eyes,” has provided strong evidence that reading novels, even for a few minutes, greatly affects our ability to detect emotion in other people.

最後の文

The results of this experiment were exciting because they suggested a direct connection between reading novels, even for a short time, and the perception of other people’s feelings.

“重要な情報（内容）は繰り返される”という原則から、この内容が 3 段落の要旨であることがわかり、正解が①であることが確認できる。

おわりに

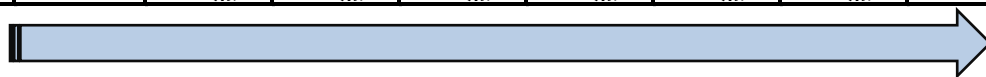
センター試験を終えた受験生が毎年、英語の筆記試験に関して口にするのが、「時間が足りなかった」という類のものである。つまり、センター試験は、問題そのものが難しいというよりも、タイム・マネージメントの方が難しいと感じる受験生が多いということである。ちなみに、試験終了後は、受験生ならば、どうしても平均点予想を気にしてしまうかもしれないが、予備校などが発表する、直後の平均点予想はあまり当てにはならないということを述べておきたい。一例をあげると、河合塾は大学入試センター試験速報で、2016 年度英語（筆記）の予想平均点を 117 点（2016 年 1 月 17 日発表）、113 点（2016

年 1 月 19 日更新) としていたが、センターが公表した実際の平均点は 112 点であり、直後の予想平均点と比べると、5 点もの差があった。

では話を戻して、いったいどうすれば、時間との勝負に打ち勝てるのかを考えてみたい。「長文で時間がかかるから、速読の練習をする」といったような、安易な考えではいけない。確かに、ある程度の速読力は必要であるが、ただひたすら速く読めば良いというものではない。きちんとした方略（情報構造に着目し、SKIM と SCAN を駆使しながら読むなど）を持って挑まなくてはならない。ここでは、より具体的に、制限時間内に全ての問題が解ける方法を示したい。まずは、①時間配分を予め決めておく、②知識問題でテンポよく解く、③読解法を駆使する、この 3 つを押さえておきたい。時間配分については、以下の配分を参考に、日頃から時間を計って問題を解き、ペースを身に付けておくことが必要である。

2016 年度の問題を参考に作成

	問題確認	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問	見直し	合計
大問あたり	2分	3分	10分	17分	13分	10分	20分	5分	
1問あたり		約20秒	A: 30秒 B: 40秒 C: 60秒	A: 60秒 B: 120秒 C: 180秒	A: 120秒 B: 100秒	120秒	130秒		80分
分類		知識問題		読解問題					
配点		14点	44点	41点	35点	30点	36点		200点



発音・アクセント、文法・語法、語彙問題は、知識が問われていることから、その知識がなければ、いくら時間をかけても解くことはできない。また、知識問題の第 1 問・第 2 問に時間をかけすぎると、配点が高い読解問題をじっくりと解く時間がなくなり、最悪の場合、時間が足りず、最後の読解問題が解けないまま解答用紙を提出することにも繋がるので注意したい。知識問題は、知識が問われているのであり、当然、知らなければいくら時間をかけても解けない。よって、知識問題では、できるだけ速く問題を解き、その分、配点の高い読解問題に時間を割けられるようにしたい。反対に、配点が高い読解問題は、思考力などが問われるため、本書で述べた読解法を用いて、じっくりと、効率よく解いていきたい。なお、最後に見直しの時間を 5 分設けているが、余裕を持っておくためのものである。例えば、上記で示した時間配分通りに問題が解けなかった場合など、不測の事態のための時間調整や解答の見直し（マークミスがないかどうかの確認なども含む）のための時間である。

試験開始直後の 2 分は、全体を通して問題形式の変更がないかを確認したい。問題を解いている最中に、形式が変わった予想外の問題に出くわし、動揺しながら問題を解くよりも、もし問題形式の変更があった場合には、予め心の準備をしておいた方が良いであろう。なお、問題形式の変更があるかどうかを予想するには、追試問題が参考になる（新しい形式の問題は、追試で実験的に出題する傾向にある。その理由として、受験者数も少なく、影響があまり大きくないからだと考えられる。不思議なことに、本試験の問題とは異なり、追試験の問題は、すぐには公表されない（受験者数などの受験状況や正解については、すぐに公表されるが。そのため、過去問題集に最新の追試問題は収録されることが少ない）。近年では、例えば第 2 問 C の応答文完成問題が、2014 年度の追試から、第 5 問の物語文読解問題が、2015 年度の追試から新たな形式として出題され、次年度以降も継続して出題されている。小さな変更では、

第 6 問 B に関して、2015 年度（本試・追試）は、段落要旨のタイトルが新たに示されていたが、2016 年度（本試・追試）ではそれは示されず、従来のもの（段落要旨のタイトルがない形式）へと戻った。センター試験問題作成部会の方針には、「過去の試験問題評価委員会報告書において要望や批判があった事項について、出題の形式、内容の改善を図る」というものがある。実は、2015 年度の第 6 問 B に対して、試験問題評価委員会の 1 つ、全国英語教育研究団体連合会から、「選択肢を読むだけで本文のテーマを容易に把握することが可能なため、真に彼らの読解力を測ることができたのか疑問が残る（『平成 27 年度試験問題評価委員会報告書（本試験）』 p.405）」という指摘があった。この指摘を受けて、センター試験問題作成部会は、次年度から指摘を受けた箇所については修正したと考えられる（問題作成部会の見解としては、「より本物らしいリーディングの状況を創出する目的で、英文のタイトルを付した」とある『平成 27 年度試験問題評価委員会報告書（本試験）』 p.411）。問題作成部会は、平成 27 年度より、平成 21 年度告示高等学校学習指導要領への移行を念頭に、従来の形式を踏襲しつつ、部分的に新傾向問題の導入を図っていると思われる。約 20 年前の問題と比べると、会話問題そのものの数が少なくなり、2015 年度追試からは物語文の読解問題の復活もあり、一見すると、コミュニケーション能力の達成度を測るための試験とは別の方向へと進んでいるように思われるが、実は、会話文を通した問題（具体的には、第 2 問 B, C, 第 3 問 A, C）の比率は 25%（50 点分）と、全体の 4 分の 1 を占め、会話の内容が理解できるだけでなく、発言の意図などを把握する力、つまり会話力の先にある、真のコミュニケーション能力が求められる問題へと変わりつつある（例えば 2016 年度の語句整序問題は、会話文の中で出題されているが、20 年前の 1996 年度の語句整序では、会話文の中で出題された問題は 1 つもない）。それに加え、20 年前と比べ、語彙数もかなり増加している。このように、質と量、共に 20 年前とは著しく変化してきた中、約 10 年前まで出題されていた物語文の読解問題が復活したことは、少し驚きかもしれない。これには 2 つ理由があろう。1 つは、試験問題評価委員会の 1 つ、高等学校教科担当教員から、「説明文、物語文、会話文等、様々な種類の文章をバランス良く出題していただきたい」という意見が出されていたこと。2 つ目は、外部試験との差別化である。センター試験問題作成部会は、今後の問題作成に当たっての留意点又はまとめとして、以下のように述べている。

あくまでも日本の高等学校段階における英語学習の達成度の判定を狙いとしていることからすれば、海外留学（TOEFL）や国際ビジネス（TOEIC）等の国際標準の試験とは目的が異なる。また、センター試験が受験日の翌日に新聞等で公開され、広く一般国民の目に触れることも特徴的である。したがって、本試験は競争的試験として他に類を見ない特殊性・公開性の下に行われていると言えよう。

（『平成 27 年度試験問題評価委員会報告書（本試験）』 p.412）

コミュニケーション能力を測る試験という観点から、センター試験は否応なしに外部試験に類似する問題形式を取らざるをえないが、物語文の読解問題を出題することで、何とか外部試験との差別化を図りたいとする態度が見え隠れする。このような背景があることから、おそらく、2015 年度追試から復活した物語文の読解問題は、今後も継続して出題されるであろう。

最後に、本試験とは異なり、不思議と翌日に（翌月にも）公開されることのない（公開性の下に行われていない）追試験（2016 年度）の問題と解答を付しておく。次年度の傾向をつかむ際、参考にしていただければと思う。

2016 年度（追試）

センター試験 英語（筆記）

第 1 問 次の問い（A・B）に答えよ。（配点 14）

A 次の問い（問 1～3）において、下線部の発音がほかの三つと異なるものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1

- ① assign ② designer ③ resigned ④ signature

問 2

- ① comb ② go ③ lot ④ only

問 3

- ① average ② courage ③ percentage ④ teenage

B 次の問い（問 1～4）において、第一アクセント（第一強勢）の位置がほかの三つと異なるものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1

- ① declare ② ethnic ③ logic ④ method

問 2

- ① initial ② ministry ③ obvious ④ recognize

問 3

- ① academy ② discriminate ③ institution ④ memorial

問 4

- ① accuracy ② psychology ③ regularly ④ temporary

第2問 次の問い（A～C）に答えよ。（配点 44）

A 次の問い（問1～10）の ～ に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。ただし、 ～ については、（ A ）と（ B ）に入れるのに最も適当な組合せを選べ。

問1 Takashi gently took his grandmother the arm and led her to the sofa.

- ① at ② by ③ in ④ to

問2 My computer crashed last night, so it needs .

- ① having repaired ② repaired ③ repairing ④ to repair

問3 Sand is the material glass is made.

- ① from which ② on which ③ what ④ which

問4 I'm sleepy, so I'm going to drink a cup of coffee.

- ① deep ② dense ③ strong ④ tough

問5 In my family, I am the second tallest my father.

- ① after ② in ③ of ④ than

問6 Nothing from the explorer since last night.

- ① has been heard ② has ever heard ③ is ever heard ④ was being heard

問7 Oh, it has started to rain. we better stay at home?

- ① Are not ② Don't ③ Hadn't ④ Should not

問8 Many British people speak (A) Spanish nor French, (B) Japanese.

- ① A : either B : even ② A : either B : let alone
③ A : neither B : even ④ A : neither B : let alone

問9 I didn't immediately recognize Professor Smith at the conference yesterday. He (A) a suit and tie although he usually (B).

- ① A : didn't put on B : does ② A : didn't put on B : was
③ A : wasn't wearing B : does ④ A : wasn't wearing B : was

問 10 If my parents (A) me study in Germany at that time, I wouldn't (B) such a good job there. 17

① A : didn't let B : find

② A : didn't let B : have found

③ A : hadn't let B : find

④ A : hadn't let B : have found

B 次の問い（問 1～3）において、それぞれ下の①～⑥の語句を並べかえて空所を補い、最も適当な文を完成させよ。解答は18～23に入れるものの番号のみを答えよ。

問 1 Student: I'm getting nervous about my examination next week.

Teacher: I just 18 19 the advice I gave everyone in class.

① bear

② in

③ mind

④ to

⑤ want

⑥ you

問 2 Ben : Hey, where did your energy go ? You were so cheerful this morning.

Jim : I don't know. I guess listening to 20 21 .

① boring

② lecture

③ made

④ me

⑤ the

⑥ tired

問 3 Jonathan : I finally finished that huge puzzle my mom gave me.

Aunt Amy : Well done! What 22 23 !

① a

② have taken

③ it

④ long

⑤ must

⑥ time

C 次の問い（問 1～3）の会話 24 ～ 26 において、二人目の発言が最も適当な応答となるように文を作るには、それぞれ(A)と(B)をどのように選んで組み合わせればよいか、下の①～⑧のうちから一つずつ選べ。

問 1 Richard: Are you sure that Taro went to Chicago this summer?

Gordon: Yes. Because he said so 24

(A) when I asked him	→	(A) if he had stayed	→	(A) America.
(B) when I talked to him		(B) if he had visited		(B) to America.

- ① (A)→(A)→(A) ② (A)→(A)→(B) ③ (A)→(B)→(A)
 ④ (A)→(B)→(B) ⑤ (B)→(A)→(A) ⑥ (B)→(A)→(B)
 ⑦ (B)→(B)→(A) ⑧ (B)→(B)→(B)

問 2 Junko: Why do you think he is a good assistant?

Philip: Because 25

(A) he never fails	→	(A) to turn in his reports	→	(A) with delay.
(B) it is likely		(B) turning in his reports		(B) without delay.

- ① (A)→(A)→(A) ② (A)→(A)→(B) ③ (A)→(B)→(A)
 ④ (A)→(B)→(B) ⑤ (B)→(A)→(A) ⑥ (B)→(A)→(B)
 ⑦ (B)→(B)→(A) ⑧ (B)→(B)→(B)

問 3 Player : There's no way we can win tomorrow's game.

Team captain : Don't be so negative! 26

(A) It's time	→	(A) to prove	→	(A) to win.
(B) We had time		(B) we'd prove		(B) we can win.

- ① (A)→(A)→(A) ② (A)→(A)→(B) ③ (A)→(B)→(A)
 ④ (A)→(B)→(B) ⑤ (B)→(A)→(A) ⑥ (B)→(A)→(B)
 ⑦ (B)→(B)→(A) ⑧ (B)→(B)→(B)

第3問 次の問い（A～C）に答えよ。（配点 41）

A 次の問い（問1・問2）の会話の 27 ・ 28 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 Karen: Have you handed in the homework for social studies class yet?

Misato: Yes, I finally finished it. 27 Thank you very much.

Karen: No problem. Anytime.

- ① I couldn't have done it without your help. ② I regret that I didn't complete it.
③ I think I should've helped you more. ④ I'm sure I can complete it with your help.

問2 Hiro: Did you see Jim Black's latest movie?

Debbie: Yes, I did. The story was outstanding, but....

Hiro: What was wrong?

Debbie: Well, his acting was 28 . I can't believe that the studio cast him in that role.

Hiro: That's a shame.

- ① anything but excellent ② far from unacceptable
③ unexpectedly wonderful ④ well above average

B 次の問い（問1～3）のパラグラフ（段落）には、まとまりをよくするために取り除いた方がよい文が一つある。取り除く文として最も適当なものを、それぞれ下線部①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 29

In recent years the number of houses in forested areas has increased greatly. This has caused problems for forest managers in dealing with forest fires. ①They used to allow natural forest fires to burn freely because they cleared excess forest growth. ②To keep homes in or near forests safe, they now try to prevent fires from spreading. ③When escaping from fires, smoke and gases should be avoided because they contain harmful chemicals. ④The continued control of such fires, however, allows dry, dead leaves to gather on the ground. If a fire occurs, it becomes more difficult and dangerous for them to control it. Thus, forest managers must constantly try to adapt their strategies to meet the needs of humans living in ever closer contact with nature.

問 2 30

Collecting physical information on your body's health is as simple as putting a piece of tape on your arm. This is an achievement of bioelectronics, one of the fields of science. ①Small body-data collecting devices, which can be attached to your body, have been developed. ②The information is sent to your smartphone in real time. ③When you get data about your body, you can take action about your health immediately. ④So, you can try not to go to see your doctor to save on household expenses. By knowing your body's condition, you can be warned of a potential health issue, which then can be treated. Thanks to the information detected by such devices, you may have a longer, healthier life.

問 3 31

People can show courage in dangerous situations. For example, someone pulling an injured person out of a crashed car after an accident is considered brave. However, people do not need to be in dangerous situations to show courage; they can do it in any type of situation. I will give you the example of my friend Sophie. ①Even though she was afraid of flying, she boarded a plane for the first time to see her parents. ②She knew that her parents had never flown even though they were not afraid of flying. ③Her fear was based on her belief that such a big and heavy machine should not be able to fly in the air. ④Before getting on the plane, she was shaking with fear, but she overcame that feeling. I think that Sophie getting on the plane was as courageous as someone taking a risk to help at the scene of a traffic accident.

C 次の会話は、「ジャーナリズム」をテーマとして、ある大学で行われたキャリア・セミナーでのやり取りの一部である。32 ～ 34 に入れるのに最も適切なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

Teacher: Good afternoon, and welcome to the career seminar. Our guest speaker is Nelma Azevedo, a journalist for a national newspaper. She is going to talk about some personal and professional requirements for becoming a journalist. Nelma, would you tell the students what they need to know to become journalists?

Nelma: Well, firstly I want to say that to become a journalist, you need to enjoy both reading and writing. You should be the kind of person who likes to read every day. You should also be reading a variety of materials such as newspapers, magazines, online articles, and literary works. Reading every day will help expand your vocabulary and keep you up to date with the news. The same is true for writing. By writing a little each day, you can practice and improve your writing skills. Also, you should experiment with various writing styles. Writing daily is a good habit to get into and may help you find a style that suits you. Many professional journalists kept diaries when they were younger as a way to make sure that they wrote on a daily basis.

Teacher: So Nelma, you are recommending that students interested in journalism should 32 .

- ① be aware of current ways to increase their vocabulary
- ② engage in daily reading and writing practice
- ③ read the diaries written by professional journalists
- ④ try to write interesting newspaper articles

Nelma: Yes, I am. And secondly, I'd like to offer some advice on the different types of journalism and the different requirements. Journalists work in all areas of media including newspapers, magazines, and television. Journalists do different jobs and get paid very different salaries. So, it is important to decide which type of journalist you want to be and learn the skills that will help you in your selected field. For example, if you are interested in photo journalism for magazines, you should always carry a camera and develop your ability in photography. For those interested in the field of online journalism, knowledge of how the Internet functions is essential these days. If television journalism is your area of interest, then understanding how news shows are produced will be helpful.

Teacher: That's really useful information. You are suggesting that students who are interested in journalism as a career should 33 .

- ① become a field journalist for a national newspaper
- ② consider what is needed for a chosen area of journalism
- ③ gain experience in a variety of fields of journalism first
- ④ improve various styles of journalism in advance

Teacher: Is there any other information that you think is important for our students to know?

Nelma: Actually, there is. There are three rules that journalists should follow. The first is “be impartial.” This means that you should report on all sides of a story and not just take one side, even if that side appears to be right. The second rule is “be timely.” Journalism happens in the immediate present, so if you are reporting on historical events, there needs to be a connection with current events. It also means that journalists have to be good at working under time pressure to meet deadlines and keep information up to date. The last and most important rule is “stick to the facts. ” The information reported must be truthful. Good journalists always check and then double-check their facts. If you follow these three rules, then you will surely become a good journalist.

Teacher: Thanks, Nelma. But isn't it true that many journalists, even some really famous ones, decide not to follow the impartiality rule? And isn't there a case to be made in defense of journalists who are partial?

Nelma: It is true that many such journalists do exist. However, if you are aiming to be trusted by the general public, it is important to show that you are impartial.

Teacher: Yes, I see your point. So, you are saying that those who want to be reliable journalists need to 34 .

- ① decide which side of a story to report on
- ② focus their reporting on general public stories
- ③ take their time when reporting on a story
- ④ treat all aspects of a story with fairness

Teacher: Thank you, Nelma. You have given the students a lot to think about. Now, any questions so far?

第4問 次の問い（A・B）に答えよ。（配点 35）

A 次の文章はある説明文の一部である。この文章と表を読み、下の問い（問1～4）の 35 ～ 38 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

In recent years, there has been increasing public support in the US for the development of city transportation networks that include support systems for those using non-motorized travel, particularly pedestrians and bicyclists. Because of this, numerous city governments have begun to consider the needs of non-motorized travelers in their transportation planning. Some cities have even started sidewalk improvements and created pedestrian-only business districts and bicycle lanes. However, the popularity of using non-motorized transportation depends on many factors, including social and economic issues.

A 2012 nationwide survey was conducted to examine the preferred methods of commuting — traveling between home and the workplace — in the US. While it found that walking and bicycling still made up a relatively small proportion of commuting activity overall, these non-motorized travel methods did play important roles within a number of US cities. The survey found that this was especially true in smaller towns (particularly those formed around large universities, also known as “university towns”) and where several state and local agencies had taken steps to promote pedestrian and bicycle travel.

Table 1

Highest Rates of Walking and Bicycling to Work for Small Cities in the US

WALKING	%	BICYCLING	%
1. (A)	42.4	1. (B)	18.6
2. Athens	36.8	2. Key West	17.4
3. (C)	36.2	3. (D)	11.2
4. North Chicago	32.2	4. Santa Cruz	9.2
5. Kiryas Joel	31.6	5. Palo Alto	8.5
6. Oxford	29.7	6. Menlo Park	7.6

Table 1 shows the six highest rates of walking and bicycling to work for small cities in the US. Again, most of these are university towns where students make up a large percentage of the total population. Towns in the northeast — including Ithaca and State College — tended to have the highest rates of walking to work. Towns in the west — including Corvallis and Davis — tended to have the highest rates of bicycling to work. Davis and Ithaca had the highest rates in their different categories.

In addition, in a number of large cities, local governments have taken steps to promote either pedestrian or bicycle travel. Table 2 shows the six highest walking and bicycling rates among large cities in the US.

Table 2

Highest Rates of Walking and Bicycling to Work for Large Cities in the US

WALKING	%	BICYCLING	%
1. Boston	15.1	1. Portland	6.1
2. Washington, DC	12.1	2. Madison	5.1
3. Pittsburgh	11.3	3. Minneapolis	4.1
4. New York	10.3	4. Boise	3.7
5. San Francisco	9.9	5. Seattle	3.4
6. Madison	9.1	6. San Francisco	3.4

Portland has the highest rate of bicycle commuting among large cities at 6.1 percent, partly because of its mild climate. However, Portland is also among places such as Madison and Minneapolis that have made investments aimed at creating more bicycle-friendly roads. Furthermore, in some large cities, evidence of neighborhood improvements to make walking and bicycling easier is now included in business promotion and real estate advertising. Madison is among several large cities that have promoted both walking and bicycling, making it one of two such cities ranking among the top six in both categories.

As more cities invest in making walking and bicycling easier, the popularity of non-motorized travel should also increase. Still, the 2012 study also identified several social and financial factors that will need to be overcome before higher rates of use for these transportation methods can be achieved.

(Brian McKenzie (2014) *Modes Less Traveled — Bicycling and Walking to Work in the United States: 2008-2012* を参考に作成)

問 1 In Table 1, which of the following do (A), (B), (C), and (D) refer to? 35

- ① (A) Davis (B) Ithaca (C) Corvallis (D) State College
 ② (A) Davis (B) Ithaca (C) State College (D) Corvallis
 ③ (A) Ithaca (B) Corvallis (C) State College (D) Davis
 ④ (A) Ithaca (B) Davis (C) State College (D) Corvallis

問 2 According to the passage and Table 2, which characteristic is most likely shared by San Francisco and Madison? 36

- ① They are highly-populated university towns. ② They encourage walking and cycling.
 ③ They have car-only business districts. ④ They have pleasant mild climates.

問 3 The main purpose of the passage is to 37 .

- ① describe the problems with promoting non-motorized transportation use
 ② discuss government policies to discourage non-motorized transportation use
 ③ provide suggestions for improving non-motorized transportation use rates
 ④ report on the current situation regarding non-motorized transportation use

問 4 What topic is most likely to follow the last paragraph? 38 .

- ① Challenges facing non-motorized transportation use
 ② Financial issues limiting motorized transportation use
 ③ Rates of use for non-motorized transportation
 ④ Strategies to promote motorized transportation use

B 次のページのスポーツ施設に関するウェブサイトを読み、次の問い（問 1 ～ 3）の 39 ～ 41 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1 A group of teachers is going to make a reservation for an outdoor basketball court for 2 hours, 20 days before they play. How much will they have to pay? 39

- ① \$30
- ② \$40
- ③ \$50
- ④ \$60

問 2 Reservations may only be made by 40 .

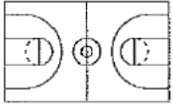
- ① calling the office
- ② going to the office
- ③ sending a fax to the office
- ④ sending an email to the office

問 3 Under which of the following conditions would a group get all of its money back? 41

- ① A group rents an outdoor basketball court but cancels 2 days before using it.
- ② A group rents an outdoor basketball court with late booking, and it rains on the day of use.
- ③ A group rents the soccer field but cancels 3 weeks before using it.
- ④ A group rents the swimming pool with early booking, and it rains on the day of use.

LIR University Sports Facilities

Office: LIR Building Room 102 Tel/Fax: 212-555-0121 Email: admin@lir.edu



Hourly and daily rentals for the pool, soccer field, and basketball courts are available for students, teachers, and the general public.

	Student Groups		Teacher Groups		Others	
	Per hour	Per day	Per hour	Per day	Per hour	Per day
Indoor Basketball court	\$30	\$200	\$45	\$300	\$60	\$500
Outdoor Basketball court	\$20	\$150	\$30	\$200	\$40	\$300
Indoor Swimming pool	\$50	\$300	\$70	\$400	\$80	\$700
Outdoor Soccer Field	\$60	\$350	\$80	\$500	\$90	\$800

Reservations

All requests for reservations must be made in person at the LIR Sports office.

Early Booking	Reservations made more than 14 days prior to date of use	\$10 discount off the total
Late Booking	Reservations made less than 4 days prior to date of use	No refunds in the event of rain

Cancellations / Money Back Policy

- 100% money back if cancellation occurs 14 days or more prior to event
- 50% money back if cancellation occurs 13 to 5 days prior to event
- No refunds if cancellation occurs 4 days or fewer prior to event

Note

Refunds in the event of rain will be made only when all the following conditions are met:

- 1) outdoor booking; 2) unplayable court or field; and 3) not late booking.



第5問 次の物語を読み、下の問い（問1～5）の 42 ～ 46 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。（配点 30）

Tomorrow would be the last day of my dream trip. In the spring, I had started on a 3,500-kilometer hike. Now, as the leaves were changing color and with 10 kilometers left, I was about to fulfill my dream of hiking the Rainbow Trail.

While I relaxed by my campfire, various thoughts went through my mind. I laughed softly at myself as I remembered the first tiring day. When I started out that day, it did not take me long to realize how foolish I was; I had packed too much. I was carrying almost 30 kilograms, and it was killing me. At my first stop, I took out a lot of canned goods, books, and other heavy things. From then on, with my load lighter, I was able to make good time.

I had decided to do this long hike after quitting my job in the city. I really liked my job, but I had been working 80 hours a week and traveling a lot on business. It seemed I was only working, and there was no other meaning to my life. Finally, it all had become too much. I decided to take some extended time off.

Tonight I had cooked the last of my food — pork and beans. Boy, it had taken me a while to get used to cooking over a fire. My first weeks of hiking were filled with horrible meals — undercooked rice, overcooked vegetables, and burnt beans. And sleeping outside on the ground — well, that also took some time getting used to.

But my biggest challenge was that I had to push myself to go on, rain or shine, hot or cold. There were no days off when I could stay indoors because of the weather. There were some days when I walked 15 to 20 kilometers in pouring rain. In the beginning, on colder days the walking helped me stay warm, but later on, the really hot days were difficult. Fortunately, I could take breaks whenever there was a stream or a lake nearby.

Although I spent most days alone, occasionally I met some interesting people during this trip. There was Sam, the postal worker, who was walking the long hike in shorter sections. He could only hike during his vacation when he often hiked 100 to 200 kilometers. He had five more years to go to complete the entire trail. And there was a happy couple, Suzanne and David, who were hiking as part of their honeymoon. But the person who moved me the most was Mary, a retired teacher, who was doing the hike in memory of her husband, who had loved the outdoors all his life.

After tomorrow, I would be back in civilization. I knew it would take a while to become comfortable again with all its conveniences at my fingertips. For the past six months, just to be able to do laundry or eat fresh vegetables at a salad bar had been a treat. I did these two things every time I was able to go into a town, which was not often. But the best thing about being in towns was...ice cream! An ice-cream cone could make my aches and pains disappear as I let the ice cream slowly melt in my mouth.

Well, I needed to get some sleep. This would be my last night sleeping outside for some time. Over the last few weeks, it had started getting chillier. As I prepared my sleeping bag, I thought

about what I had learned. Now I was much more relaxed and calm. Being by myself had given me a lot of time to think. I had gained the ability to enjoy silence and be silent. At the same time, challenging myself physically taught me that I had the ability to do more than I had thought. And I now had a new and deep respect for nature. As I gradually fell asleep, I knew I was ready for whatever the future would hold, thanks to the inner strength I had developed during these past months.

問 1 The author laughed when he remembered the first day because he 42 .

- ① felt it was the happiest day for him
- ② had known very little about hiking
- ③ had met many interesting people
- ④ spent that day in front of the fire

問 2 The author decided to take a long hike because he 43 .

- ① could stop at small towns along the way
- ② lost his well-paid job in the city
- ③ wanted to stop and think about his life
- ④ was walking with his wife and friends

問 3 Sam needed five more years to finish the trail because he 44 .

- ① walked only a limited distance every year
- ② walked too much while doing his job
- ③ was carrying too much in his pack
- ④ was walking with his wife and friends

問 4 The phrase at my fingertips is closest in meaning to 45 .

- ① clearly marked
- ② easily reached
- ③ finally finished
- ④ softly touched

問 5 What did the author do on a typical day on the trail? 46

- ① He ate ice cream and did laundry in town.
- ② He enjoyed meeting interesting people.
- ③ He waited in his tent for the weather to improve.
- ④ He walked in the wild and cooked by himself.

第6問 次の文章を読み、下の問い（A・B）に答えよ。なお、文章の左にある(1)～(6)はパラグラフ（段落）の番号を表している。（配点 36）

- (1) Did you know that reading good novels may improve your ability to handle social and business situations such as job interviews? Recent scientific research has shown that people who read novels are better able to read an interviewer's body language and figure out what they are thinking or feeling. People who read literary works also have greater emotional awareness and superior social skills.
- (2) Researchers have investigated the reasons why reading literature has this impact. They found that in literary fiction more work is left to the imagination. Therefore, the reader has to try harder to understand subtle points and complexities of the characters' thoughts. More effort is required to understand each character's behavior and be sensitive to small hints of emotion. Through reading literature readers learn to empathize with people and view the world from another person's perspective. When observing people, they become more skilled at interpreting gestures and facial expressions.
- (3) One research experiment, called "Reading the Mind in the Eyes," has provided strong evidence that reading novels, even for a few minutes, greatly affects our ability to detect emotion in other people. In this experiment, two groups of participants looked at 36 photographs of pairs of eyes and chose in each case one word from a set of four which, in their judgment, best fitted the emotion shown. Those who had read a novel beforehand scored significantly better than the other group which had not. The results of this experiment were exciting because they suggested a direct connection between reading novels, even for a short time, and the perception of other people's feelings.
- (4) Contemporary experiments have looked into the reasons for this direct connection. They have shown that the same brain networks used to understand stories are also used to figure out the thoughts and feelings of others; the brain treats conversations and actions among fictional characters as if they were actual social encounters. When we recognize an emotion in a character in a story, our brains generate the same emotion, so we are simulating the character's emotional state. This working out of what fictional characters are thinking and feeling becomes a powerful rehearsal for living in the real world.
- (5) Research done today has allowed us to reinterpret brain research done decades ago. That earlier research showed that reading detailed descriptions in literary works activates many areas of the brain besides the language regions. For example, in one experiment it was found that words like "lavender," "cinnamon," and "soap" excite not only the language-processing areas but also those connected to smells. Another experiment showed that metaphors involving the sense of touch, like "The singer had a velvet voice" and "He had leathery hands," affect the part of the brain responsible for perceiving touch. Indeed, it appears that the brain makes almost no distinction between reading about an experience and actually experiencing it. This feeling

by the reader of having a live experience is what makes literature so effective in “reading” others.

- (6) Fiction, at its best, is more than just enjoyable. It seems to improve our capacity to understand and feel the emotions of other people, as well as connect with something larger than ourselves. The ability to interpret the signals given by other people, and to respond effectively, is clearly important for success in life. So, the next time you need to interact with others, whether it is being introduced to someone new or going for a job interview, you might like to first read from the pages of a great novel. Then, you may have a better experience.

A 次の問い（問 1～5）の ～ に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問 1 The word empathize in paragraph (2) is closest in meaning to .

- ① copy a character's behavior ② feel what others are feeling
③ question others' thoughts ④ state your opinion strongly

問 2 What did the experiment described in paragraph (3) show? .

- ① Fiction readers can identify emotions well. ② Participants' emotions change over time.
③ The mind can influence how we see. ④ There are limits to reading literature.

問 3 According to paragraph (4), how is the brain affected by fictional characters? .

- ① It attempts to produce different networks.
② It predicts what should happen in an experiment.
③ It reacts as if the reader were directly involved.
④ It recognizes the outcome of the conversation.

問 4 According to paragraph (5), brain research has shown that reading .

- ① allows us to create metaphors
② helps us to describe smells
③ makes our experiences enjoyable
④ stimulates areas linked to senses

問 5 What would be the best title for this passage? .

- ① Impressive Interviews in Novels
② New Reasons for Reading Fiction
③ Problems with Brain Research
④ The Importance of Body Language

B 次の表は、本文のパラグラフ（段落）ごとの内容をまとめたものである。52～55に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つずつ選び、表を完成させよ。ただし、同じものを繰り返し選んではいけない。

Paragraph	Content
(1)	Introducing the topic
(2)	52
(3)	53
(4)	54
(5)	55
(6)	Conclusion and recommendation

- ① An experiment looking at the effects of reading
- ② How readers must work hard to comprehend fiction
- ③ How the brain treats fictional situations as real
- ④ Taking a fresh look at past brain research

2016 年度（追試）の正解

英 語 （ 筆 記 ） （200 点満点）

問題 番号 (配点)	設 問		解答番号	正 解	配 点	問題 番号 (配点)	設 問		解答番号	正 解	配 点	
第1問 (14)	A	1	1	4	2	第3問 (41)	A	1	27	1	4	
		2	2	3	2			2	28	1	4	
		3	3	4	2		B	1	29	3	5	
	B	1	4	1	2			2	30	4	5	
		2	5	1	2			3	31	2	5	
		3	6	3	2		C		32	2	6	
		4	7	2	2				33	2	6	
								34	4	6		
第2問 (44)	A	1	8	2	2	第4問 (35)	A	1	35	4	5	
		2	9	3	2			2	36	2	5	
		3	10	1	2			3	37	4	5	
		4	11	3	2			4	38	1	5	
		5	12	1	2		B	1	39	3	5	
		6	13	1	2			2	40	2	5	
		7	14	3	2			3	41	3	5	
		8	15	4	2				1	42	2	6
		9	16	3	2		2	43	3	6		
		10	17	4	2		3	44	1	6		
	B	1	18	6	4*	第5問 (30)	4	45	2	6		
			19	2			5	46	4	6		
		2	20	1	4*		第6問 (36)	A	1	47	2	6
			21	4					2	48	1	6
		3	22	4	4*	3			49	3	6	
			23	5		4			50	4	6	
	C	1	24	3	4	5			51	2	6	
		2	25	2	4	B			52	2	6*	
		3	26	2	4				53	1		
								54	3			
							55	4				
						(注) * は, 全部正解の場合のみ点を与える。						